

平成27年度  
神戸市埋蔵文化財年報

2018

神戸市教育委員会



## 序

神戸市内には、いにしえの人々の活動の痕跡である遺跡が約900ヶ所もあります。しかしながら、そのような人々のくらしの跡は、開発事業によつて失われていく場合も少なくありません。

これらのかけがえのない地域の歴史は、発掘調査を行つて記録を残し、続く世代の人々に伝えていかねばなりません。また、その成果を市民の皆様に公開し、活用することで、埋蔵文化財へのご理解を深めていただければと思っています。

本書では、平成27年度に実施した18遺跡、26件の発掘調査成果と、5件の遺物整理を概要として収録いたしました。本書が、神戸の歴史を語るうえでの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および本書を作成するにあたり、ご協力いただきました関係諸機関ならびに関係者各位に、厚くお礼申し上げます。

平成30年3月

神戸市教育委員会



# 例　　言

1. 本書は、神戸市教育委員会が平成27年度に実施した埋蔵文化財発掘調査事業の概要である。事業に  
関わる発掘調査は、下記の調査組織によって実施した。

## 調査関係者組織表

神戸市文化財保護審議会（史跡・考古資料担当）

工　樂　善　通　　大阪府立狭山池博物館館長  
菱　田　哲　郎　　京都府立大学文学部教授

## 教育委員会事務局

教育長	雪村新之助
社会教育部長	東野展也
文化財課長	千種 浩
文化財専門役	丸山 潔
埋蔵文化財係長	前田佳久
埋蔵文化財センター担当係長	安田 澤
文化財課担当係長	斎木 嶽 松林宏典
事務担当学芸員	山口英正 池田 穀 中村大介 井上麻子
調査担当学芸員	谷 正俊 内藤俊哉 浅谷誠吾 藤井太郎
	川上厚志 石島三和 阿部 功 山田侑生
	綴纏文佳 荒田敬介 岡田健吾
埋蔵文化財センター担当学芸員	黒田恭正 佐伯二郎 阿部敬生 井尻 格 中谷 正
震災復興派遣職員（宮城県石巻市）	西岡誠司

2. 本書に記載した位置図は、神戸市発行5万分の1神戸市全図を、各遺跡の位置図は、神戸市発行  
2,500分の1都市計画図を使用した。

3. 本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当学芸員が執筆し、I. 平成27年度事業の要  
のうち、1～4については前田が、5については安田が執筆した。本書の編集は佐伯が行った。

4. 調査現場の写真撮影、遺構図のトレースなどについては、各調査担当学芸員が行った。

# 目 次

序

例言

I. 平成 27 年度 事業の概要	
1. 事業体制	1
2. 開発指導	1
3. 埋蔵文化財調査事業	1
4. 指定文化財（考古資料）	2
5. 刊行物一覧	2
6. 埋蔵文化財の公開活用事業	3
II. 平成 27 年度の発掘調査	
1. 本山遺跡 第 40 次調査	15
2. 岡本北遺跡 第 11 次調査	19
3. 郡家遺跡 第 92 次-b 調査	21
4. 篠原遺跡 第 34 次調査	27
5. 篠原遺跡 第 35 次調査	31
6. 日暮遺跡 第 43 次調査	35
7. 日暮遺跡 第 44 調査	41
8. 日暮遺跡 第 45 調査	45
9. 雲井遺跡 第 37 次調査	49
10. 雲井遺跡 第 38 次調査	53
11. 楠・荒田町遺跡 第 58 次調査	59
12. 兵庫津遺跡 第 62 次 C 調査	63
13. 兵庫津遺跡 第 65 次調査	77
14. 兵庫津遺跡 第 66 次調査	85
15. 兵庫津遺跡 第 67 次調査	91
16. 兵庫津遺跡 第 68 次調査	103
17. 大開遺跡 第 16 次調査	107
18. 中遺跡 第 31 次調査	115
19. 長田神社境内遺跡 第 18 次調査	119
20. 戎町遺跡 第 70 次調査	123
21. 大田町遺跡 第 19 次調査	125
22. 垂水・日向遺跡 第 37 次調査	129
23. 赤羽遺跡 第 2 次-b 調査	133
24. 出合遺跡 第 50 次調査	139
25. 堅田遺跡 第 9 次調査	143
26. 玉津田中遺跡 第 41 次調査	149

# 挿図目次

fig.1	企画展示「縄文時代のこうべ」[写真].....	8	fig.44	造構面検出状況（東から）[写真].....	30
fig.2	企画展示「昭和のくらし・昔のくらし 10」[写真] .....	8	fig.45	調査区全景（東から）[写真].....	30
fig.3	体験考古学講座「鍛錬をつくろう」[写真].....	8	篠原遺跡第35次調査		
fig.4	秋季企画展特別講演会「写真」.....	8	fig.46	調査地位置図.....	31
fig.5	五色塚古墳まつり [写真].....	8	fig.47	土層断面図.....	32
fig.6	おおとし山まつり [写真].....	8	fig.48	調査区配置図.....	32
fig.7	平成27年度埋蔵文化財年報掲載遺跡位置図.....	11	fig.49	調査区平面図.....	33
fig.8	調査地位位置図（1）.....	12	fig.50	1区全景（南西から）[写真].....	34
fig.9	調査地位位置図（2）.....	12	fig.51	2区全景（西から）[写真].....	34
fig.10	調査地位位置図（3）.....	13	fig.52	3区全景（西から）[写真].....	34
fig.11	調査地位位置図（4）.....	13	日暮遺跡43次調査		
fig.12	調査地位位置図（5）.....	14	fig.53	調査地位位置図.....	35
fig.13	調査地位位置図（6）.....	14	fig.54	土層断面図.....	36
木山遺跡第40次調査			fig.55	第1造構面平面図.....	37
fig.14	調査地位位置図.....	15	fig.56	1区第1造構面全景（西から）[写真].....	38
fig.15	土層断面図.....	16	fig.57	1区第2造構面全景（西から）[写真].....	38
fig.16	調査区平面図.....	17	fig.58	2区第1造構面全景（西から）[写真].....	38
fig.17	調査区全景（南西から）[写真].....	18	fig.59	2区第2造構面全景（西から）[写真].....	38
fig.18	調査区全景（南東から）[写真].....	18	fig.60	3区第1造構面全景（西から）[写真].....	38
fig.19	2区北壁断面（南西から）[写真].....	18	fig.61	3区第2造構面全景（西から）[写真].....	38
fig.20	2区遺物出土状況（南西から）[写真].....	18	fig.62	第2造構面平面図.....	39
岡本北遺跡第11次調査			fig.63	S B 201・202 平・断面図.....	40
fig.21	調査地位位置図.....	19	fig.64	S B 203・S X 201・202 平・断面図.....	40
fig.22	土層断面柱状図.....	19	fig.65	S B 201・202（北から）[写真].....	40
fig.23	調査区配置図.....	20	fig.66	S B 203・S X 201・202（北から）[写真].....	40
fig.24	調査区平面図.....	20	日暮遺跡第44次調査		
fig.25	調査区全景（北から）[写真].....	20	fig.67	調査地位位置図.....	41
郡家遺跡第92-b調査			fig.68	調査区配置図.....	41
fig.26	調査地位位置図.....	21	fig.69	土層断面図.....	42
fig.27	調査区配置図.....	22	fig.70	第1造構面平面図.....	42
fig.28	II・III区北壁土層断面図.....	22	fig.71	1区全景（東から）[写真].....	43
fig.29	調査区平面図.....	23	fig.72	2区第1造構面全景（南から）[写真].....	43
fig.30	II区全景（北西から）[写真].....	24	fig.73	3区第1造構面全景（南東から）[写真].....	43
fig.31	S B 201 平・断面図.....	24	fig.74	3区 S D 102 遺物出土状況（南西から）[写真].....	43
fig.32	S B 201 瓦底土器出土状況（南東から）[写真].....	24	fig.75	第2造構面平面図.....	43
fig.33	S B 201 瓦底土器出土状況（南から）[写真].....	24	fig.76	2区第2造構面全景（南から）[写真].....	44
fig.34	S B 202 平・断面図.....	25	fig.77	3区第2造構面全景（南東から）[写真].....	44
fig.35	S B 203 平・断面図.....	25	日暮遺跡第45次調査		
fig.36	S B 204 平・断面図.....	25	fig.78	調査地位位置図.....	45
fig.37	S B 205 平・断面図.....	25	fig.79	第1造構面平面図.....	46
fig.38	III区全景（東から）[写真].....	26	fig.80	1区第1造構面全景（北東から）[写真].....	46
篠原遺跡第34次調査			fig.81	2区第1造構面全景（南西から）[写真].....	46
fig.39	調査地位位置図.....	27	fig.82	第2造構面平・断面図.....	47
fig.40	調査区配置図.....	28	fig.83	2区第2造構面全景（南西から）[写真].....	48
fig.41	下層確認トレンチ（西から）[写真].....	28	fig.84	2区第2造構面落ち込み（北から）[写真].....	48
fig.42	土層断面図.....	28	雲井遺跡第37次調査		
fig.43	調査区平面図.....	29	fig.85	調査地位位置図.....	49

fig.86	第1造構面平・断面図	50	fig.133	杭28平・断面図	70
fig.87	1区第1造構面全景(東から)(写真)	51	fig.134	杭28第4造構面全景(北から)(写真)	70
fig.88	2区第1造構面全景(西から)(写真)	51	fig.135	杭28第5造構面全景(北から)(写真)	70
fig.89	第2造構面平・断面図	51	fig.136	杭30平・断面図	71
fig.90	1区第2造構面全景(東から)(写真)	52	fig.137	杭30客土掘削後全景(北から)(写真)	71
fig.91	2区第2造構面全景(西から)(写真)	52	fig.138	杭30第2造構面全景(北から)(写真)	71
fig.92	1区調査区東壁断面(西から)(写真)	52	fig.139	杭31平・断面図	72
fig.93	2区調査区北壁断面(南東から)(写真)	52	fig.140	杭37平・断面図	72
雲井遺跡第38次調査			fig.141	杭31第2造構面全景(北から)(写真)	73
fig.94	調査地位置図	53	fig.142	杭37全景(南から)(写真)	73
fig.95	調査区配置図	53	fig.143	杭38平・断面図	74
fig.96	土層断面図	54	fig.144	杭38第1・2造構面全景(南から)(写真)	74
fig.97	造構平面図	55	fig.145	杭38第2造構面全景(南から)(写真)	74
fig.98	1区全景(東から)(写真)	56	fig.146	杭38 SK301・302(南から)(写真)	74
fig.99	2区全景(北西から)(写真)	56	fig.147	出土遺物実測図	75
fig.100	機土・炭化材出土範囲図	56	fig.148	出土遺物実測図	76
fig.101	1区SX01炭化材出土状況(南から)(写真)	56	fig.149	杭27 SK302出土人骨(頭骸骨・表)(写真)	76
fig.102	2区SB01(南から)(写真)	57	fig.150	杭27 SK302出土人骨(頭骸骨・裏)(写真)	76
fig.103	SB01平面図・ピット断面図	57	兵庫津遺跡第65次調査		
fig.104	S B 02 平面図・ピット断面図	57	fig.151	調査地位置図	77
fig.105	S B 03 平面図・ピット断面図	57	fig.152	調査区配置図	78
fig.106	2区第2造構面全景(北西から)(写真)	58	fig.153	2区土層断面図	78
桶・荒田町道路第58次調査			fig.154	第1造構面平面図	79
fig.107	調査地位置図	59	fig.155	1区第1造構面全景(北東から)(写真)	79
fig.108	調査区平・断面図	60	fig.156	1区第1造構面石列(南から)(写真)	79
fig.109	調査前状況(写真)	60	fig.157	第2造構面平面図	80
fig.110	1区北半全景(北西から)(写真)	60	fig.158	1区第2造構面全景(北東から)(写真)	80
fig.111	造構断面図	61	fig.159	1区第2造構面石列(南東から)(写真)	80
fig.112	1区南半全景(南東から)(写真)	61	fig.160	第3造構面平面図	81
fig.113	2区北半全景(東から)(写真)	61	fig.161	1区第3造構面全景(北東から)(写真)	81
fig.114	2区南半全景(南東から)(写真)	62	fig.162	2区SK314～317断面(北西から)(写真)	81
fig.115	3区全景(東から)(写真)	62	fig.163	SK313遺物検出状況(南西から)(写真)	81
兵庫津遺跡第62次C調査			fig.164	SK313平・断面図	81
fig.116	調査地位置図	63	fig.165	第4造構面平面図	82
fig.117	調査区配置図	64	fig.166	第5造構面平面図	82
fig.118	調査地全景(北東から)(写真)	64	fig.167	第6造構面平面図	82
fig.119	杭8平・断面図	65	fig.168	1区第4造構面全景(北東から)(写真)	83
fig.120	杭9平・断面図	65	fig.169	2区第4造構面全景(南西から)(写真)	83
fig.121	杭8全景(南西から)(写真)	65	fig.170	2区第5造構面全景(南西から)(写真)	83
fig.122	杭9全景(北東から)(写真)	65	fig.171	2区第6造構面全景(南西から)(写真)	83
fig.123	杭14平・断面図	66	兵庫津遺跡第66次調査		
fig.124	杭16平・断面図	66	fig.172	調査地位置図	85
fig.125	杭14 SK101(南東から)(写真)	66	fig.173	調査区配置図	85
fig.126	杭16 S E 101(南東から)(写真)	66	fig.174	土層断面図	86
fig.127	杭17平・断面図	67	fig.175	第1～3造構面平面図	87
fig.128	杭17第2造構面全景(北西から)(写真)	67	fig.176	第1造構面全景(西から)(写真)	87
fig.129	杭22平・断面図	67	fig.177	第2造構面全景(西から)(写真)	87
fig.130	杭27平・断面図	68	fig.178	第4～6造構面平面図	88
fig.131	杭27第3造構面全景(北から)(写真)	69	fig.179	第3造構面全景(西から)(写真)	89
fig.132	杭27第5造構面全景(北から)(写真)	69	fig.180	拡張区第4造構面全景(西から)(写真)	89

fig.181	第4遺構面全景(西から)(写真) .....	89	fig.228	S D 302 下層平面図 .....	113
fig.182	第5遺構面全景(西から)(写真) .....	89	fig.229	S D 302 断面図 .....	113
fig.183	拡張区第5遺構面全景(西から)(写真) .....	89	fig.230	1区 S D 302 上層(南から)(写真) .....	114
fig.184	拡張区第6遺構面全景(西から)(写真) .....	89	fig.231	1区 S D 302 下層(南から)(写真) .....	114
兵庫津遺跡第67次調査			fig.232	1区 S D 302 下層遺物出土状況(北から)(写真) .....	114
fig.185	調査地位置図 .....	91	fig.233	2区 S D 303・304(南から)(写真) .....	114
fig.186	調査地全景(北西から)(写真) .....	92	中道遺跡第31次調査		
fig.187	調査区配置図 .....	92	fig.234	調査地位置図 .....	115
fig.188	土層断面図 .....	93	fig.235	調査区土層断面図 .....	116
fig.189	I区第1遺構面平面図 .....	94	fig.236	調査区平面図 .....	117
fig.190	I区第2遺構面平面図 .....	94	fig.237	7トレンチ(東から)(写真) .....	118
fig.191	I区第1遺構面全景(北東から)(写真) .....	94	fig.238	17トレンチ(東から)(写真) .....	118
fig.192	I区第2遺構面全景(北東から)(写真) .....	94	fig.239	21トレンチ(東から)(写真) .....	118
fig.193	I区第3遺構面全景(北東から)(写真) .....	95	fig.240	25トレンチ(東から)(写真) .....	118
fig.194	I区第3遺構面平面図 .....	95	長田神社境内遺跡第18次調査		
fig.195	I区第4遺構面平面図 .....	96	fig.241	調査地位置図 .....	119
fig.196	I区第5遺構面平面図 .....	96	fig.242	調査区平・断面図 .....	120
fig.197	I区第4遺構面全景(北東から)(写真) .....	97	fig.243	西半遺構検出状況(南東から)(写真) .....	121
fig.198	I区第5遺構面全景(北西から)(写真) .....	97	fig.244	S D 02 遺物出土状況平・断面図 .....	121
fig.199	III区第1遺構面平面図 .....	98	fig.245	S D 02 遺物出土状況(南東から)(写真) .....	121
fig.200	III区第2遺構面平面図 .....	99	fig.246	東半遺構検出状況(南東から)(写真) .....	122
fig.201	III区第1遺構面全景(南西から)(写真) .....	99	fig.247	東半南端S D 03 検出状況(西から)(写真) .....	122
fig.202	III区第2遺構面全景(南西から)(写真) .....	99	fig.248	第16次調査・第18次調査平面合成図 .....	122
fig.203	III区第3遺構面平面図 .....	100	戎町遺跡第70次調査		
fig.204	III区第4・5遺構面平面図 .....	100	fig.249	調査地位置図 .....	123
fig.205	III区第3遺構面全景(南西から)(写真) .....	101	fig.250	調査区平面図 .....	124
fig.206	III区第4・5遺構面全景(南西から)(写真) .....	101	fig.251	土層断面図 .....	124
兵庫津遺跡第68次調査			fig.252	1区北壁断面(南東から)(写真) .....	124
fig.207	調査地位置図 .....	103	fig.253	3区北壁断面(南東から)(写真) .....	124
fig.208	調査区平・断面図 .....	104	大田町遺跡第19次調査		
fig.209	1区第1遺構面平・断面図 .....	105	fig.254	調査地位置図 .....	125
fig.210	1区第1遺構面全景(北から)(写真) .....	106	fig.255	土層断面図 .....	126
fig.211	2区全景(北から)(写真) .....	106	fig.256	調査区平面図 .....	126
fig.212	3区全景(北から)(写真) .....	106	fig.257	1・2区全景(北から)(写真) .....	127
fig.213	4区全景(北から)(写真) .....	106	fig.258	3区北全景(南東から)(写真) .....	127
大間遺跡第16次調査			fig.259	3区南全景(南東から)(写真) .....	127
fig.214	調査地位置図 .....	107	fig.260	3区北S P 03(南西から)(写真) .....	127
fig.215	調査区配置図 .....	107	fig.261	4区東半全景(南西から)(写真) .....	127
fig.216	1区南東壁土層断面図 .....	108	fig.262	5区全景(北東から)(写真) .....	127
fig.217	2区南東壁土層断面図 .....	108	fig.263	4区西半全景(北東から)(写真) .....	128
fig.218	第1遺構面平面図 .....	109	fig.264	6区全景(北東から)(写真) .....	128
fig.219	1区第1遺構面全景(南西から)(写真) .....	110	fig.265	7区全景(南東から)(写真) .....	128
fig.220	2区第1遺構面全景(南西から)(写真) .....	110	fig.266	7区全景(北西から)(写真) .....	128
fig.221	1区第2遺構面全景(北東から)(写真) .....	110	垂水・日向遺跡第40次調査		
fig.222	2区第2遺構面全景(南西から)(写真) .....	110	fig.267	調査地位置図 .....	129
fig.223	第2遺構面平面図 .....	111	fig.268	調査区平面図 .....	130
fig.224	1区S B 202(東から)(写真) .....	111	fig.269	調査区断面図 .....	130
fig.225	2区S B 203(西から)(写真) .....	111	fig.270	1区全景(北から)(写真) .....	131
fig.226	第3遺構面平面図 .....	112	fig.271	2区全景(東から)(写真) .....	131
fig.227	S D 302 上層平面図 .....	113	fig.272	3区全景(南から)(写真) .....	131

fig.273	4区全景（南西から）〔写真〕	131	fig.297	1区第1構造全景（西から）〔写真〕	142
fig.274	4区S X 01 断面（南西から）〔写真〕	132	fig.298	2区第1構造全景（東から）〔写真〕	142
fig.275	5区全景（東から）〔写真〕	132	fig.299	1区第2構造全景（南東から）〔写真〕	142
fig.276	6区全景（東から）〔写真〕	132	fig.300	1区S P 202 遺物出土状況（南東から）〔写真〕	142
fig.277	調査前状況（南から）〔写真〕	132	fig.301	2区第2構造全景（南東から）〔写真〕	142
赤羽遺跡第2次－b調査			堅田遺跡第9次調査		
fig.278	調査地位置図	133	fig.302	調査地位置図	143
fig.279	調査区配置図	133	fig.303	土層断面図	144
fig.280	土層断面図	134	fig.304	第1構造平面図	145
fig.281	構造平面図	135	fig.305	S B 101 東側柱断面図	145
fig.282	3～4トレンチ全景（南東から）〔写真〕	136	fig.306	第1構造全景（西から）〔写真〕	146
fig.283	1区全景（南東から）〔写真〕	136	fig.307	B区東西トレンチ（南東から）〔写真〕	146
fig.284	2区全景（南東から）〔写真〕	136	fig.308	第1構造 S P 103 出土遺物実測図	146
fig.285	3区全景（南から）〔写真〕	136	fig.309	S K 102・101 遺物出土状況（東から）〔写真〕	146
fig.286	S B 01 平・断面図	137	fig.310	S K 101・102 平・断面図	146
fig.287	S B 02 平・断面図	137	fig.311	第2構造平面図	147
fig.288	3区S B 01（東から）〔写真〕	137	fig.312	S B 201 柱穴断面図	147
fig.289	2区S B 02（南西から）〔写真〕	137	fig.313	第2構造（西から）〔写真〕	148
fig.290	2区S X 02（南から）〔写真〕	138	fig.314	第2構造出土遺物実測図	148
出合遺跡第50次調査			玉津田中遺跡第41次調査		
fig.291	調査地位置図	139	fig.315	調査地位置図	149
fig.292	調査地配置図	140	fig.316	調査範囲図	150
fig.293	調査区配置図	140	fig.317	調査地（南西から）〔写真〕	150
fig.294	土層断面図	140	fig.318	4区（南から）〔写真〕	150
fig.295	第1構造平面図	141	fig.319	6区（北から）〔写真〕	150
fig.296	第2構造平面図	141	fig.320	調査区平・断面図	150

## 表 目 次

表1	文化財保護法に基づく届出・通知等件数一覧	2	表8	画像データなどの貸出	4
表2	発掘調査面積	2	表9	平成27年度 企画展	5
表3	発掘調査面積別件数	2	表10	平成27年度 歴史講演会	6
表4	考古資料の館外貸出	3	表11	平成27年度埋蔵文化財発掘調査一覧（1）	9
表5	資料調査成果の公表	3	表12	平成27年度埋蔵文化財発掘調査一覧（2）	10
表6	特別利用（1）	3	表13	平成27年度埋蔵文化財出土遺物整理一覧	10
表7	特別利用（2）	4			

# I. 平成 27 年度 事業の概要

## 1. 事業体制

神戸市教育委員会文化財課は、平成年 23 度から埋蔵文化財係と文化財保護活用係の 2 係体制で文化財の保護と活用を担っている。埋蔵文化財係に関する業務のうち、文化財保護法に関わる届出などの窓口業務、試掘調査や本調査の受託契約等の事務や補助金事務は市役所文化財課で行い、発掘調査終了後の出土品の復元や保存修復及びその後の管理と活用に関しては、神戸市埋蔵文化財センターで行っている。出土品や発掘調査で得られた写真や図面等は、記録保存のために空調管理した収蔵施設で保管し、さらにこれらを活用した企画展示、様々な体験学習、出張講座等を埋蔵文化財センターを中心として展開している。また、外部からの依頼による収蔵資料に対する資料調査や貸出にも対応している。

また、平成 27 年度についても、東日本大震災の復興調査支援のため、岩手県石巻市教育委員会に 4 月から学芸員 1 名を 1 年間派遣している。

## 2. 開発指導

周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等については、文化財保護法第 93 条・第 94 条に基づく届出・通知が必要であり、各事業者に対して必要とされる保護措置を示している。また、建築確認申請に伴う事前届出書の閲覧を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地内における建築行為については埋蔵文化財発掘届出書の提出を促している。

平成 27 年度の文化財保護法に基づく届出・通知件数は、645 件（前年度 629 件）であり、このうち、民間事業者・個人による第 93 条の届出が 589 件（前年度 575 件）であった。また、開発行為事前審査 109 件（前年度 129 件）、試掘調査依頼は 110 件（前年度 97 件）であった。以上のように届出の件数は、26 年度には前年度比で 1 割程度の減少になったが、27 年度は前年度に比べて若干増加したもののはほぼ横ばいの状況となっている。試掘調査については、近隣データーを積極的に活用したことや、建物の解体に伴う届出に関しては基礎解体時の立会を行うことで試掘調査を兼ねるようにした結果、26 年度は前年度比では半減したが、27 年度には約 1 割の増加になっている。窓口やファックス等による包蔵地の確認、問い合わせは年間で約 6,000 件であった。

これらの届出や問い合わせに対して、試掘調査によって得られた情報や既存情報を GIS データに集積し、それを基に可能な限り建物の基礎が遺跡に影響を与えないように、設計変更を求めている。そのことによって、発掘調査を回避し、新たな建物等の下に遺跡の一部を保護している件数も多い。

## 3. 埋蔵文化財調査事業

平成 27 年度に実施した埋蔵文化財調査事業（調査事業 26 件・整理事業 5 件）は 31 件で、それに要した経費の総額は、124,931 千円であった。

i 国庫補助事業 発掘調査事業のうち、その原因が個人住宅や個人事業者、零細事業者による場合は、国庫補助事業として、規程と基準により公費を充当している。平成 27 年度の緊急発掘調査事業費は 39,312 千円であった。

ii 市内発掘調査 昨年度と同様に、発掘調査件数は、基礎構造の設計変更により発掘調査を回避することができたことなどにより、昨年度より 15 件減少した。

発掘調査面積は 3,127 m<sup>2</sup>（延べ 6,159 m<sup>2</sup>）で、このうち民間関連事業によるものが 2,992 m<sup>2</sup>（延べ 5,493 m<sup>2</sup>）と 90%以上を占めており、26 年度に引き続き公共事業に伴う調査は少ない状況にある。

面積別でみると、1 件を除いてすべて 300 m<sup>2</sup>以下の調査で、26 年度よりも更に調査面積の小規模化が進行している。また、そのうち 100 m<sup>2</sup>以下の調査が半数を占めている。この要因の一つとしては、地震に対応できる建物基礎構造を確保するために、個人住宅においても地盤改良工事などで基礎が深くなり、遺構などに抵触することが要因の 1 つであると考えられる。

表 1 文化財保護法に基づく届出・通知等件数一覧

No.	内 容	件数
1	発見・発掘届（保護法 93・94 条関係）	645 件
	i 民間の事業に伴う発掘届（93 条）	
	ii 公共の事業に伴う発掘通知（94 条）	
	iii 発掘届・発見通知（92 条）	1 件
2	開発行為事前審査等各種申請	109 件
3	試掘調査（依頼件数）	110 件
4	発掘調査（大規模確認調査も含む）	26 件
	i 民間事業に伴う発掘調査	
	ii 公共事業に伴う発掘調査	
	iii 開場整備事業に伴う発掘調査	
5	工事立会	66 件
6	整理作業（復興調査整理作業を含む）	5 件

表 2 発掘調査面積（単位：m<sup>2</sup>）

	民間関連事業	公共関連事業	合 計
調査面積	2,992	135	3,127
延べ調査面積	5,493	666	6,159

表 3 発掘調査面積別件数

調査面積	件数	%	調査面積	件数	%
~100 m <sup>2</sup>	13 件	50	1,001~2,000 m <sup>2</sup>	0 件	0
101~300 m <sup>2</sup>	12 件	46	2,001~5,000 m <sup>2</sup>	0 件	0
301~500 m <sup>2</sup>	0 件	0	5,001 m <sup>2</sup> 以上	0 件	0
501~1,000 m <sup>2</sup>	1 件	4	合計	26 件	100

試掘及び確認調査を除く

#### 4. 指定文化財（考古資料）

平成 28 年 3 月 3 日付けで、神戸市指定有形文化財（考古資料）として、「上沢遺跡佐波理鉢他井戸出土品」（佐波理鉢 1 口、鉄製紡錘車 1 点、土師器皿 1 点（墨書「万」）、井戸 1 基）が指定された。

平成 11 年度の発掘調査で出土したものであるが、展覧会への出品などを通して近年再評価され、神戸市文化財保護審議会委員の調査を経て、佐波理鉢は奈良時代の正倉院御物に類似した優品で、井戸における祭祀行為とも関連して貴重な資料として評価されるに至ったものである。

#### 5. 刊行物一覧

平成27年度に刊行した発掘調査報告書等は、下記のとおりである。

『日暮遺跡第39次発掘調査報告書』、『祇園遺跡第17次・18次発掘調査報告書』額価1,600円、『祇園遺跡第21次発掘調査報告書』額価900円、『生田遺跡第 8 次発掘調査報告書』額価1,000円、『平成26年度神戸市埋蔵文化財年報』額価800円、『神戸市埋蔵文化財分布図（平成28年度版）』額価450円 『神戸の遺跡シリーズVI 神戸の弥生遺跡』額価 200円。

## 6. 埋蔵文化財の公開活用事業

### i 考古資料の特別利用等

埋蔵文化財センターでは発掘調査の一環として出土遺物の復元・整理作業および木製品・金属製品等の保存処置ならびに、発掘調査報告書の作成を行っている。整理作業の終了した遺物および写真・図面等の記録類は埋蔵文化財センターにて収蔵され、公開活用事業や調査研究等の利用に供している。当年度における資料の特別利用は表4～7のとおりである。

表4 考古資料の館外貸出

No.	申請者	利用目的・内容	資料名	資料点数
1	兵庫県立考古博物館	阪神淡路大震災20年特別展「地震・噴火・洪水―災害復興の3万年史―」で展示	西赤女塚古墳土居剥ぎ取り 写真 西赤女塚古墳遺構(北から)他の点 古神戸外国人居住地跡遺構 基本土居剥ぎ取り 住吉宮跡(2次)号機 円筒埴輪 住吉宮跡(11次)埴砂割ぎ取り	14
2	大阪府立弥生文化博物館	春季特別展「奈良跡―女王殿の現象学―」で展示	西赤女塚古墳 面文帶環状孔・神鏡型(6号機) 西赤女塚古墳 面文帶環状孔・神鏡型(11号機) 白木越塚古墳 面文帶環向式・神鏡型 写真 西赤女塚古墳遺構(東から)他の点	12
3	兵庫県立考古博物館	夏季企画展「こうこはくフィギュア展」	兵庫県淡路 36次開削出土 土人形他	19
	滋賀県立安土城考古博物館	秋季特別展「怪五王 海を渡る」で展示	舞子浜遺跡 6次 1号机等 大型開削跡壁付埴輪 7次 1号机東 大型円筒埴輪・1号机西 滝形円筒埴輪・2号机 大型埴輪 8次 2号机西 朝顔形埴輪 写真 5次 大型開削跡壁付埴輪 他9点	15
4	和歌山県立御所風土記の丘	秋季特別展「紀伊の地、大いに轟う」で展示	旧神戸外国人居住地跡遺構 洋波垣剥ぎ取り資料 西赤女塚古墳 地平・直線剥ぎ取り資料 写真 旧神戸外国人居住地跡跡地断面 他3点 図版 西赤女塚古墳断面図兼基礎段交差断面模式図 1点	7
5	青岡市立歴史博物館	特別展「歴史どうぶつえん―歴史の中の動物たち―」	住吉東古墳出土 土器 二京東古墳出土 土器 兵庫県淡路出土 土器 写真 住吉東古墳出土 黑利埴輪	8
6	尼崎市立田畠資料館	特別展「発生時代のものづくり」	西赤女塚古墳5号機出土 磁磚隕石 2点 西赤女塚古墳6号機出土 磁磚隕石 1点 玉津田中古墳出土 磁磚 5点 北山古墳 磁磚隕石土器オーラマ 1点 森井古墳出土 磁磚隕石 1点 淡路島出土 磁磚隕石 1点 写真 北山古墳 隕石 10点	21
7	堺市博物館	堺市立みらい歴史博物館特別展「河川博物館の説りⅡ」	白石遺跡 磁磚隕石 27点 土師器等 1点 平瓦3点 泥塑印1点 金剛瓦造2点	53
8	明石市	明石市立文化博物館で発掘された明石の歴史展―明石の中世―	丸山寺跡瓦 14点 国津川遺跡 瓦釜 2点 如意寺 瓦 7点 出雲遺跡 瓦 1点 今治尻遺跡 瓦 1点	55
9	神戸市立博物館	特別展「海潮の歴史と文化―受け継がれる記憶―」	淡路遺跡 佐原土器 6点 松野遺跡土器 8点 石器品 10点 写真 道町跡開拓遺跡集合写真地 2点 松野遺跡1次豪華他 5点	31
10	兵庫県立考古博物館	特別展「盆地―鉄人たちの稼ぎ―」で展示	兵庫県淡路 57次開削出土土器 4点 石器品3点 磁磚 3点	12

表5 資料調査成果の公表

No.	申請者	利用目的・内容	資料名	資料点数
1	個人	河内岸修先生古稀記念講演「三角縁神釘型の仕上げ加工 伝統作製体制」掲載	西赤女塚古墳 5号機写真(申請者撮影)	1
2	個人	「創文藝誌の誕生と進化」広島大学人文学部研究科布教 研究会発表要旨(参考)考古学研究会記念第6回に掲載	吉田南道跡出土素文鏡の実測図	1
3	(株)ネクソン	NHK番組「SWITCHインタビュー「人達」」映像の再使用	新舟跡出土3号土器	1
4	兵庫県立神戸市立博物館	兵庫県立神戸市立博物館ホームページに掲載	神戸市埋蔵文化財センター外観・常設展示室風景	2
5	コムニコビジネスサポート	コミュニケーション・コンサルティング・ハラタクシに掲載	「土器でつづる淡路風景	1
6	(株)学研教育アイ・シーエー	「歴史探訪実習」デジタル教科書 社会科 中学生の歴史」に掲載	五色塚古墳	5
7	個人	「京都府埋蔵文化財調査 第7集 一創立三十五周年記念誌」一二回掲載	日輪寺遺跡出土佐生土器・玉津田中遺跡出土佐生土器	3
8	個人	「歴史発見者の生産地編成の再検討にして」中近世土器の基礎研究(以下)掲載	未公開資料を申請者が撮影したもの	4
9	個人	卒業論文(表六甲・東屋跡地帯における土器供給の様相)に掲載	細面古跡・二京町・淡路出土土器 中津地区実測資料	10

表6 特別利用(1)

No.	申請者	利用目的・内容	資料名	資料点数
1	個人	縄文土器研究のため。	大通山遺跡出土縄文土器	
2	個人	修士論文作成のため。	兵庫県淡路 第36次 土人器 「報告書」42頁 写真148	85
3	個人	研究のため。	日輪寺遺跡出土 陶土器	60
4	個人	論文執筆	兵庫県淡路 第33次・第45次 出土人骨	
5	個人	明石市立文化博物館 展覧会準備	細面古跡・如意寺三重塔・大山寺妙法院 出土瓦	

表7 特別利用(2)

No.	申請者	利用目的・内容	資料名	資料点数
6	個人	研究のため	玉串田中遺跡7号墳・15号・宝原遺跡(内塙)・住吉町19号・吉田所遺跡 出土粘土器	47
7	垂水区まちづくりサポート	垂水区歴史推進協議会企画ホームページ「たるみレボ」の制作	西武女塚古墳1号墳(2点)・9号墳	3
8	テレビ朝日	テレビ朝日番組「ナニコレ珍舌番」撮影	鹿児島市吉井出土 瓜式土器	8
9	個人	卒業論文作成のため	佐賀県立考古学博物館 摂製会場準備	946
10	個人	科学技術院	今川穴庭遺跡(出合遺跡)出土瓦	2
11	個人	明石市立文化博物館 摄製会場準備	二葉町遺跡 土師器窯	40
12	個人	卒業論文作成のため	さくらね保育園2点 オキタ古墳群3点	5
13	個人	卒業論文作成のため	玉串田中遺跡出土 粘土器	16
14	個人	研究のため	大野原出土 粘土器	82
15	個人	論文執筆	細川遺跡 土器類	97
16	個人	卒業論文作成のため	住吉東古墳出土 塵曉	77
17	個人	修士論文作成のため	別府遺跡(吉井・吉宮) 土師器窯	15
18	個人	論文執筆	野添遺跡(土寺) 粘土器・石器	53
19	個人	研究のため	新居遺跡1・3・12・13号墓(切開)	4
20	個人	卒業論文作成のため	郡家古墳出土 石器	9
21	個人	博士論文作成のため	長津田遺跡 14次 出土陶器	94
22	個人	論文執筆		

表8 画像データなどの貸出

No.	申請者	利用目的・内容	資料名	資料点数
1	個人	ヒスリア立命 号・神戸市立博物館の見学会に掲載	兵庫或木本石塔の写真データ	1
2	産業技術研究所	日本産業技術会議国際会議1300年JCT開幕	五色庄古墳 写像データ	1
3	群馬県桐生市 文化施設さんセンター	桐生市立歴史文化館・世界古代・中世・近世の歴史	塙田山東古墳出土 青銅鏡	1
4	建設局下水道計画課	「下水道第15 東京」で展示ホールに掲載・同様パンフレット掲載	旧神戸外国人居留地 煙草留下水道	2
5	神戸市埋蔵文化財	神戸市埋蔵文化財記念展示会に掲載	北東木脚鏡出土状況	1
6	株式会社小笠屋	日本美術全集 第1巻 日本国の唐土・埋蔵	西友坂古墳出土 墓具・集合写真	1
7	医療法人社団生命倫理みどり病院	病院ホームページ	吉方塚古墳 写像データ	1
8	新潟市文化センター	新潟市文化センター見学会(新潟市立歴史博物館)	北東木脚鏡出土状況 他	2
9	株式会社AKAWA	新人文講義「これまでなかった! 古代王城と古都の謎」	五色庄古墳 写像データ	1
10	神戸市立公園部	広報紙掲載・掲載	五色庄古墳 写像データ	1
11	テレビ朝日	テレビ朝日番組「ナニコレ珍舌番」	西友坂古墳地図集合	2
12	多賀城市教育委員会	企画展「震災復興」と「遺産」でのバネル及びリーフレット、市ホームページ	日吉宮遺跡23次・井戸跡 同様追跡7次 出土遺物合 同様追跡11次 出土遺物集合 同様追跡44次 第一回発掘区全景 追跡151次 既存石造構	5
13	住友ゴム工業(株)	社内会	日暮古墳 地図集合	1
14	奈良文化財研究所	ホームページ コム	高市山遺跡(高市山・上屋構造の復元)	2
(株)はる製作室	宝島は行灯 考からわかる日本人の起業史に掲載	兵庫或木本石塔出土人骨 舞子浜遺跡出土埴輪・人骨 住吉東古墳出土埴輪	6	
16	個人	京都芸術大学 記念	西友坂古墳 3号墳・7号墳	2
(株)伊藤研究室	月刊創世紀第1号	五色庄古墳 写像データ	1	
18	個人	「人間の発達・野生から家庭へ」(トスマ出版)に掲載	新竹造石臼・イヌク留骨	2
19	鹿児島市	鹿児島の歴史を記した各古墳の南跡碑をめぐって	五色庄古墳 写像データ・図面	3
20	(有)三建商	「歴史・歴史PEAL」	高市山遺跡	1
21	テレビコムスタッフ(株)	05 TBS番組「下町 歴史アリ」	兵庫或木本石塔	3
(株)集美社	「世界が見たい日本の歴史」(単行本)	西友坂古墳 6号墳(斜め)	1	
23	個人	研究会で発表	元伊丹市跡 62次 鉢形石 他 写真・図面データ	94
24	太陽企画への夢基金実行委員会	同向ホームページ	高山遺跡 写真データ	3
25	個人	同向ホームページ、レシピ・記録等に掲載	五色庄古墳 写真・図面データ 他	11
26	共済連盟まちづくり課	歴史文献館・両津城の歴史と長崎のチラシ・広報に掲載	兵庫或木本石塔	3
27	東京書籍(株)	「デジタル図書館・動画編」より社会 歴史Ⅱに掲載	五色庄古墳 不真データ	1
28	中日新聞社	中日新聞夕刊文化版	五色庄古墳 不真データ	1
29	(株)山口出版社	「現代の日本史 改訂版」	五色庄古墳 不真データ	1
30	朝日新聞社	学習版「歴史教科書カバーバルシリーズ」記事内	北東木脚鏡	1
31	朝日新聞社	学習版「歴史教科書カバーバルシリーズ」記事内	新竹造石臼・土舟角製指輪	1
32	(株)コープ	「国語レクチャー」ホームページで掲載	五色庄古墳 写真データ	1
33	個人	「中学生 向踏跡の考古学(第3巻)	兵庫或木本石塔	1
34	日本経済新聞	関西版 夏期 内の別冊「近畿の石塔」に掲載	兵庫或木本石塔 不真データ	1
35	国立大学法人神戸大学医学部施設投資管理	医学部内の新・芦田町遺跡の案内看板掲載	横・芦田町遺跡 不真データ	2

## ii 埋蔵文化財センターにおける公開活用事業

西区粧台にある埋蔵文化財センターを中心に、埋蔵文化財の公開活用の事業を行っている。

埋蔵文化財センターの平成27年度入館者数は31,332人であり、うち小学校団体の入館が98校6,233人で、全体の約1/5を占めている。4・5月は日本の歴史を習い始めた六年生の団体

が「弥生時代」や「古墳時代」の学習のために来館し、1・2月は「古い道具とそれを使っていたころの暮らし」を学習する三年生の団体が、冬季企画展「昭和のくらし・昔のくらし」見学のために来館している。この2時期には市内の小学校のみならず、近隣市町からの見学もあった。

#### ① 企画展の開催

埋蔵文化財センターでは平成3年の開館以来、毎年数回の企画展を開催しており、平成17年度からは年4回以上の企画展を開催している。平成27年度も表9のとおり4回の企画展を開催した。

毎年春季の企画展は、先述したとおり、歴史学習を始める多数の小学校六年生の団体が来館することから、わかりやすく、歴史に興味が持てるような展示を心掛けている。当年度は『弥生時代のムラ・古墳時代のムラ』と題し、神戸市内の遺跡からの出土品や写真などを利用して弥生時代から古墳時代へと変化した人々の暮らしをわかりやすく展示した。また期間中には担当学芸員による講演会も実施した。

夏季企画展は、夏休みを中心に実施している「体験考古学講座」のメニューに合わせて、その講座内容をより深く理解できるようにテーマを設定している。当年度は『石の道具・木の道具・カネの道具』と題して、各時代における道具の素材の変化や特徴に関する展示をおこなった。また期間中には担当学芸員による講演会も実施した。

秋季企画展は『縄文時代のこうべ』と題し、平成3年の開館以来はじめて縄文時代を中心としたテーマで、神戸市内出土の縄文土器を中心に関連資料も借用して神戸における縄文時代に関する調査・研究成果を展示した。平成3年の開館当時は神戸市内における縄文時代の資料は常設展示においてもわずかであったが、開館以来25年の間における調査資料の蓄積によって、神戸における縄文時代の様相がかなり明らかになってきており、その成果を公表する展示となつた。

この企画展に関連して、兵庫県立考古博物館深井明比古氏による『ここまでわかった「ひょうごの縄文』』と、立命館大学矢野健一氏による『縄文の村で生きるには—縄文人の人生と社会』と題する講演会を実施した。

また、関連ワークショップとして「縄文はっぱを探そう」と「縄文土器をつくろう」を開催して計45名の参加があった。

冬季企画展は毎年『昭和のくらし・昔のくらし』と題して、『昭和』に使われた電化製品や家具・道具・文具・玩具などを展示とともに、当時のお茶の間と台所を再現して当時のくらしづくりが理解できる展示を行っている。当年度で10回目となり毎回好評を博している。当回は特に、昭和30～40年代のモータリゼーションにスポットを当て、ミゼットの実車や、関連する写真などの展示を行つた。また、期間中のイベントとして、コマ回し・割ばし鉄砲

表9 平成27年度 企画展

展示会名	開催期間	開館日数	入館者数
弥生時代のムラ・古墳時代のムラ	4/11(土)～5/31(日)	4 8	6,931
石の道具・木の道具・カネの道具	7/18(土)～8/30(日)	3 8	2,248
縄文時代のこうべ	10/17(土)～12/6(日)	4 2	3,107
昭和のくらし・昔のくらし	1/23(月)～3/6(日)	3 8	7,510

・けん玉などのなつかしい遊びを体験する「昭和のあそび・昔のあそび」と旧車運転同好会の御協力によりミゼットなどの昭和に活躍した自動車による「昭和の車ミニパレード」を実施した。また、神戸アーカイブ写真館の東充氏による『写真でみる「昭和」の神戸—昭和30・40年代の交通を中心に』と題する講演会を実施した。

#### ②体験考古学講座

埋蔵文化財センターにて、夏休みの期間中を中心に古代の技術によって銅鐸づくり・ガラス玉づくり、土器づくり、勾玉づくり等、古代の物づくりを体験する「体験！考古学講座」を10回実施した。のべ547名の参加があった。

#### ③歴史講演会の開催

各企画展にあわせ、展示をより深く理解できるような内容や、また後記する西区地域学の見学地にちなんだ内容、あるいは平成27年度の最新発掘成果を報告する内容で、神戸市教育委員会文化財課学芸員ならびに外部講師による講演会を計7回実施した。また、秋季および冬季企画展では特別に外部講師を招いて特別講演会を実施した。

表10 平成27年度 歴史講演会

日程	講 演 名	講 師	参加者数
5月16日	神戸の弥生時代のムラ・古墳時代のムラ	神戸市教育委員会学芸員 佐伯二郎	48
7月25日	石の道具・木の道具・カネの道具	神戸市教育委員会学芸員 阿部歌生	48
10月24日	ここまでわかった「ひょうごの縄文」	兵庫県立考古博物館 深井明比古氏	58
11月14日	縄文の村で生きるには—縄文人の人生と社会—	立命館大学 小野健一氏	45
11月28日	縄文時代のこうべ—見えてきた神戸の縄文遺跡—	神戸市教育委員会学芸員 安田温	58
1月30日	写真でみる「昭和」の神戸—昭和30・40年代の交通を中心に	神戸アーカイブ写真館 東 充氏	40
3月5日	平成27年度 発掘調査報告会	神戸市教育委員会学芸員 谷正俊・藤井太郎	36

#### ④出張考古学講座・出張授業・出張講義

埋蔵文化財センターで行う体験講座以外にも、市内小学校や公民館からの依頼に基づいて学芸員が赴き、勾玉づくりや土器づくりの体験講座や学校での地域の遺跡についての授業や、講義などを行っている。当年度は20の学校園・団体、計2,341人の参加があった。

#### ⑤出張展示・館外展示

後記する神戸学院大学での博物館学芸員課程に協力する展示と、北区「道場町文化祭」における館外展示の他に、当年度は道場小学校において11月4日から10日まで『石包丁づくりのムラ』をテーマに塩田遺跡の出土遺物を中心に展示し、学芸員が解説をおこなった。また先年度に引き続き兵庫区のトーホー平野祇園店にて「祇園遺跡」、垂水区のレバンテ垂水1番館において「垂水・日向遺跡」、北区有馬町の太閤の湯殿館において「湯山遺跡」、北区山田町の山田小学校において「山田中遺跡」のそれぞれ館外展示を行っている。

#### ⑥学校等との連携事業

連携協定を結んでいる神戸学院大学の博物館学芸員課程の実習として、学生の企画した展示に関する展示実習指導を行った。その実習成果として平成27年11月7日～12月5日、同大学図書館において「見て学ぶ—昔の皿はどんな皿？」「古代のアクセサリー——あなたの知らないまが玉」のテーマで展示をおこなった。

また毎年、博物館実習を受け入れており、当年度は8月4日から8日の5日間、神戸女子大学・神戸芸術工科大学・神戸学院大学から計5名の実習生を受け入れ、考古資料の取り扱

いや、資料写真撮影、保存科学、展示企画などの実習を行った。

6月1日～6月5日および11月9日～13日の年2回、兵庫県下の中学校二年生の職業体験プログラムである「トライやるウィーク」に協力し、市内13校から計16名の生徒を受け入れ、出土土器の洗浄など埋蔵文化財センターでの仕事を体験してもらった。

また毎年、神戸市小学校教育研究会社会科部と連携し、神戸市生涯学習支援センターコミスタこうべにおいて9月に開催される小学生の夏休み自由研究作品展である『神戸市小学校社会科作品展』において、考古学的な遺物や遺跡に関する優秀な研究作品を31点選定し、『埋蔵文化財センター賞』を授与した。

### Ⅲ 地域連携事業

各地域におけるイベントや各区役所・西図書館等と連携して埋蔵文化財の公開活用事業を実施した。

#### ① 地域事業への参加・協力

西区においては、「西神中公園桜まつり」（4月4日）、「西神工業団地IPフェア」（8月21日）、「樋谷川まつり」（9月5日）、「押部谷明石川リバーウォーク2015」（11月22日）等の地域におけるイベントにおいて参加・協力し、埋蔵文化財センターや地域の遺跡をパネルなどで紹介あるいは、現地での遺跡説明などを行った。また西図書館と連携して8月5日「2015西図書館自由研究相談室」において学芸員が「昔の道具相談室」と題して講演し、また夏休みの期間中両館を回るクイズスタンプラリーを実施した。北区では毎年11月2・3日に北区道場町の農村環境改善センターにて開催される「道場町文化祭」に参加協力している。当年度は『石包丁づくりのムラ』をテーマに塩田遺跡の出土遺物を中心に展示し、道場町の弥生時代について紹介した。

#### ② 「五色塚古墳まつり」の開催

平成26年度から、垂水区に所在する史跡五色塚古墳の活用を促進する目的として、垂水区役所と連携して『五色塚古墳まつり』を開催している。当年度は6月13日（土）に開催した。それに先立つ5月30日（土）には地元霞ヶ丘小学校の六年生に授業の一環で小形の円筒埴輪を作ってもらい、当日墳丘上にその埴輪を並べた。また同校六年生の中から希望者を募り、まつり当日午前中に各自制作した埴輪を持ち、古代衣装を着て五色塚古墳の周囲をパレードした。午後は一般の方もできる、「勾玉づくり」「鏡づくり」「土器・埴輪づくり」などの古代体験を実施した。午前・午後合せて389人の参加者があった。

#### ③ 「おおとし山まつり」の開催

毎年、垂水区役所と連携して11月の文化財保護月間の期間中に、垂水区にある大歳山遺跡公園（舞子細道公園）に復元されている弥生時代の竪穴建物を公開し、それと合わせて「勾玉づくり」「土器づくり」「塩づくり」「赤米おにぎり試食」などの古代体験イベントを開催している。当年度は11月2日に実施し、796名の参加者があった。

#### ④ 「西区地域学」の開催

西区役所と連携し、毎年西区を中心とした遺跡などを見学するイベントを開催している。当年度は11月29日に「西神戸の縄文遺跡とその周辺をめぐる」と題し、元住吉山遺跡・大歳山遺跡・埋蔵文化財センター等をマイクロバスで移動して見学した。参加者は36名だった。

またその前日は前記の歴史講演会として学芸員による「縄文時代のこうべー見えてきた神戸の縄文風景ー」と題する講演会を実施した。

#### iv 史跡五色塚古墳の公開

神戸市垂水区にある史跡五色塚古墳は日本で初めて築造当時の姿に復元された巨大前方後円墳として全国的に有名であり、歴史学習の場としてまた、明石海峡を望む絶好のビューポイントとして毎年全国から多くの見学者がある。平成27年度の入場者は36,399人であった。そのうち小学校団体や専門的な説明を希望する団体には学芸員が赴いて説明を行った。



fig.1 企画展示「縄文時代のこうべ」



fig.2 企画展示「昭和のくらし・昔のくらし10」



fig.3 体験考古学講座「銅鐘をつくろう」



fig.4 秋季企画展特別講演会



fig.5 五色塚古墳まつり



fig.6 おおとし山まつり

表11 平成27年度埋蔵文化財発掘調査一覧(1)

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	調査面積 (延床面積)	調査期間	調査内容	調査原因
1	和山遺跡 第40次調査	東灘区田町4丁目32-2,3	神戸市教育委員会	阿部 功 荒川敬介	64m <sup>2</sup> 64m <sup>2</sup>	27. 12. 29~ 27. 12. 25	転地状況ら込みを検出。弥生土器、土師器、須恵器。瓦器が出土。	共同住宅建設 [国庫補助事業]
2	岡本遺跡 第11次調査	東灘区西岡本5丁目50-10	神戸市教育委員会	池田 順	21m <sup>2</sup> 21m <sup>2</sup>	27. 4. 30~ 27. 5. 1	小規模なピットと古墳時代後期の溝を検出。弥生土器、土師器、須恵器が出土。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
3	郡家遺跡 第8次・b調査	東灘区御影2丁目368	神戸市教育委員会	石島三和	160m <sup>2</sup> 220m <sup>2</sup>	27. 4. 14~ 27. 5. 15	第1遺構面：ピット、土坑を検出。東播系須恵器が出土。 第2遺構面：古墳時代中期の壺穴建物。埴立柱建物を検出。土器器、須恵器が出土。	共同住宅建設 [国庫補助事業]
4	福原遺跡 第34次調査	灘区福原町4丁目34	神戸市教育委員会	石島三和	213m <sup>2</sup> 213m <sup>2</sup>	27. 9. 28~ 27. 10. 13	鍾倉～室町時代のピット、土坑を検出。	土地開発
5	藤原遺跡 第35次調査	灘区藤原北町1丁目8	神戸市教育委員会	阿部 功	55m <sup>2</sup> 55m <sup>2</sup>	27. 10. 19~ 27. 10. 23	弥生時代後期の遺物を含むピット、土坑。弥生時代中期後半の土石波を検出。繩文時代後期土器が出土。	宅地造成
6	日畠遺跡 第43次調査	中央区東貴重1丁目127, 429-2-1番, 430の一部	神戸市教育委員会	谷 正俊	130m <sup>2</sup> 253m <sup>2</sup>	27. 5. 15~ 27. 6. 30	鍾倉～昭和時代の柱穴、ピット、土坑。屋敷地の区画溝と思われる溝を検出。石破が出土。古墳時代初期の壺穴建物、土坑、ピットを検出。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
7	日畠遺跡 第44次調査	中央区日暮通1丁目308の一部, 309	神戸市教育委員会	山田佑生	57m <sup>2</sup> 78m <sup>2</sup>	27. 10. 5~ 27. 10. 16	弥生時代後期～古墳時代初期及び平安時代の溝、土坑。ピットを検出。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
8	日畠遺跡 第45次調査	中央区日暮通2丁目327	神戸市教育委員会	岡田健吾	29m <sup>2</sup> 40m <sup>2</sup>	28. 2. 22~ 28. 2. 23	第1遺構面：中世作面、ピットを検出。 第2遺構面：古墳時代以前の落ち込み（風呂桶木）を検出。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
9	露井遺跡 第33次調査	中央区二宮町3丁目310-1	神戸市教育委員会	川上厚志	111m <sup>2</sup> 226m <sup>2</sup>	27. 6. 22~ 27. 7. 16	第1遺構面：風呂～中世の土器器、須恵器、ピット、土坑を検出。 第2遺構面：古墳時代末の柱穴、土坑を検出。	共同住宅建設
10	露井遺跡 第30次調査	中央区琴ノ郷町3丁目305	神戸市教育委員会	谷 正俊	126m <sup>2</sup> 252m <sup>2</sup>	28. 1. 18~ 28. 2. 23	古墳時代後期の壺穴建物、落ち込み、古墳時代後期以前の土石波を検出。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
11	柿・荒川遺跡 第58次調査	中央区柿町5丁目3-2	神戸市教育委員会	岡田健吾	63m <sup>2</sup> 63m <sup>2</sup>	27. 9. 7~ 27. 9. 25	溝状遺構、弥生時代中期の土坑・落ち込みを検出。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
12	兵庫津遺跡 第62次C調査	兵庫区中之郷2丁目	神戸市教育委員会	吉木 聰 藤井太郎 荒川敬介	49m <sup>2</sup> 100m <sup>2</sup>	28. 2. 25~ 28. 3. 14	6面の遺構面を確認。17世紀前半の町屋建物遺構を検出。	商業施設建設
13	兵庫津遺跡 第66次調査	兵庫区兵庫町1丁目3-2, 21, -22, -23, -27	神戸市教育委員会	阿部 功	240m <sup>2</sup> 1, 104m <sup>2</sup>	27. 6. 18~ 27. 8. 26	6面の遺構面を確認。18～19世紀の堆土面や町屋建物遺構を検出。	共同住宅建設 [国庫補助事業]
14	兵庫津遺跡 第66次調査	兵庫区兵庫町1丁目3-2, 21, -22, -23, -27	神戸市教育委員会	阿部 功	115m <sup>2</sup> 600m <sup>2</sup>	27. 6. 22~ 27. 8. 21	6面の遺構面を確認。18～19世紀の堆土面や町屋建物遺構を検出。	確認調査
15	兵庫津遺跡 第67次調査	兵庫区切戸町2-1	神戸市教育委員会	石島三和	135m <sup>2</sup> 666m <sup>2</sup>	28. 1. 12~ 28. 2. 29	5面の遺構面を確認。平安時代、14～15世紀、近世の遺構、遺物。	市営住宅建設
16	兵庫津遺跡 第68次調査	兵庫区西出町8-4, -5, -10	神戸市教育委員会	阿部 功	25m <sup>2</sup> 50m <sup>2</sup>	28. 2. 1~ 28. 2. 17	近世後半の整地面を2面検出。、竪口。瓦器が出土。	共同住宅建設 [国庫補助事業]
17	大塚遺跡 第16次調査	長田区大塚本通2丁目1-17	神戸市教育委員会	山田佑生	109m <sup>2</sup> 292m <sup>2</sup>	28. 1. 8~ 28. 2. 8	第1遺構面：中世溝、土坑 第2遺構面：弥生時代後期の壺穴建物、溝、土坑 第3遺構面：溝、自然流路を検出。曲柄平窓が出土。	共同住宅建設 [国庫補助事業]
18	中遺跡 第31次調査	北区八多町中字フク883-3, 885-2, 4, 887, 888-1, 889-2	神戸市教育委員会	岡田健吾	115m <sup>2</sup> 115m <sup>2</sup>	28. 1. 19~ 28. 2. 2	落ち込み、ピットを検出。旧耕土層より古墳時代後期～奈良時代の須恵器、中業前半の白磁器が出土。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
19	長田神社境内遺跡 第18次調査	長田区六番町7丁目3-8	神戸市教育委員会	藤井太郎	35m <sup>2</sup> 35m <sup>2</sup>	27. 9. 4~ 27. 9. 18	弥生時代後期の溝・ピットを検出。弥生時代後期～終末期の鉢・盤・広口器が出土。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
20	大町遺跡 第20次調査	須磨区大町4丁目62	神戸市教育委員会	川上厚志	121m <sup>2</sup> 121m <sup>2</sup>	28. 1. 24~ 28. 2. 3	弥生時代前期の土器が出土。	確認調査
21	大元町遺跡 第19次調査	須磨区大元町7丁目3-17	神戸市教育委員会	池田 順 山田佑生	30m <sup>2</sup> 30m <sup>2</sup>	27. 5. 20~ 27. 5. 25	主に奈良時代の柱穴、溝、ピットを検出。	個人住宅建設 [国庫補助事業]
22	森木・日向跡 第37次調査	魚崎区日向町1丁目105-6	神戸市教育委員会	阿部 功	17m <sup>2</sup> 17m <sup>2</sup>	27. 9. 14~ 27. 9. 17	落ち込みから弥生時代～鍾倉時代の土器が出土。	社団建設
23	新井遺跡 第22次・b調査	西宮市伊丹谷町開和字人代 官1447-1	神戸市教育委員会	川上厚志 藤井文佳	860m <sup>2</sup> 1, 140m <sup>2</sup>	27. 4. 6~ 27. 5. 15	平安時代後期の壺穴建物、古墳時代の壺穴建物、落ち込み、土坑。ピットを検出。落ち込みから臼石、石製機械品が出土。 〔先年度からの耕削事業〕	特別養老老人 ホーム建設

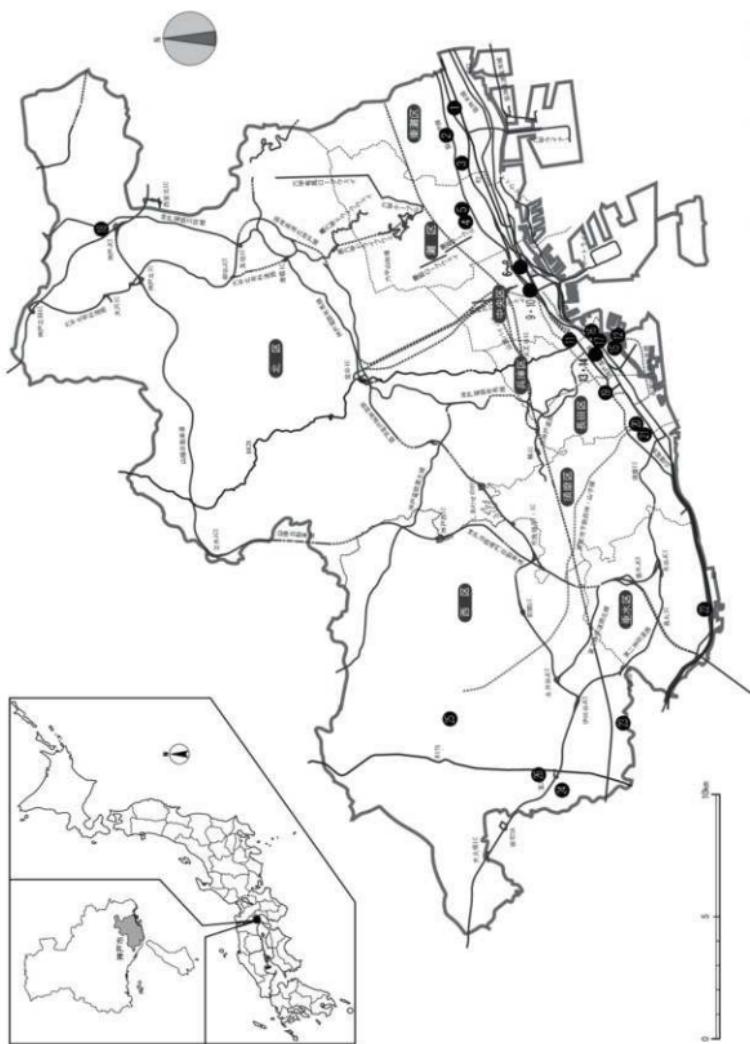
表12 平成27年度埋蔵文化財発掘調査一覧(2)

24	出雲道路 第30次調査	西区平野町中津字門ノ坪 2596	神戸市教育委員会 川上厚志 山田惟生	30m 60m	27.4.6～ 27.4.23	中世の遺構・遺物、弥生時代後期～古墳時代初期のピット、土坑、落ち込みを検出。	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
25	聖三道跡 第9次調査	西区平野町聖三字金屋下 204-2	神戸市教育委員会 荒田敬介	197m 216m	27.8.24～ 27.9.25	平安時代～室町時代の孤立性建物、ピット、土坑、漢古墳時代の孤立性建物、ピット、漢を検出。	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
26	上津山中道跡 第41次調査	西区平野町芝崎字道竹 96-2	神戸市教育委員会 池田 錠	324m 324m	28.1.25～ 28.1.26	ピット、土坑を検出。弥生土器、土師器、須恵器が出土。	商業用倉庫建設 〔国庫補助事業〕
調査面積合計						3,127m <sup>2</sup>	
説明書面積合計						6,159m <sup>2</sup>	

表13 平成27年度埋蔵文化財出土遺物整理一覧

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	調査面積 延面積面積	実施期間	調査内容	調査原因
A	日塙津遺跡 第62次調査		神戸市教育委員会	森木・内藤・ 茂谷・川上・ 中谷・山田・ 荒田・岡田	0 m 0 m	27.4.1～ 28.3.31	出土遺物整理・報告書作成〔平成29年3月刊行〕	商業施設建設
B	祇園道路 第17・18次調査		神戸市教育委員会	谷 正俊 内藤俊哉	0 m 0 m	27.4.1～ 28.3.31	出土遺物整理・報告書刊行〔平成28年3月刊行〕	小学校建設
C	生田遺跡 第80次調査		神戸市教育委員会	藤井太郎 細畠文枝	0 m 0 m	27.5.1～ 28.3.25	出土遺物整理・報告書刊行〔平成28年3月刊行〕	共同住宅建設
D	祇園道路 第21次調査		神戸市教育委員会	川上厚志 河田機吾	0 m 0 m	27.5.1～ 28.3.31	出土遺物整理・報告書刊行〔平成28年3月刊行〕	共同住宅建設
E	日暮道路 第39次調査		神戸市教育委員会	谷 正俊	0 m 0 m	27.8.1～ 28.2.29	出土遺物整理・報告書刊行〔平成28年3月刊行〕	社会建設

図7 平成27年度 墓誌文化財年報掲載地位置図  
(各施設の番号は、掲載順番号と一緒に)



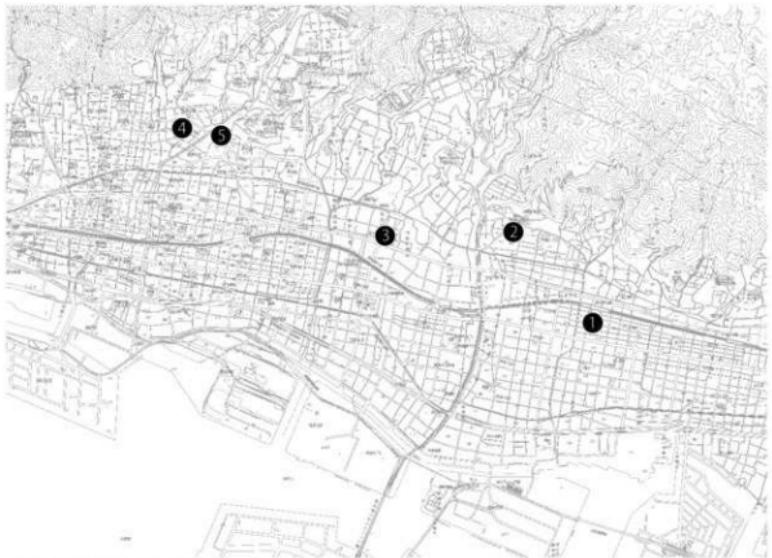


fig.8 調査地点位置図（1） 1:50,000

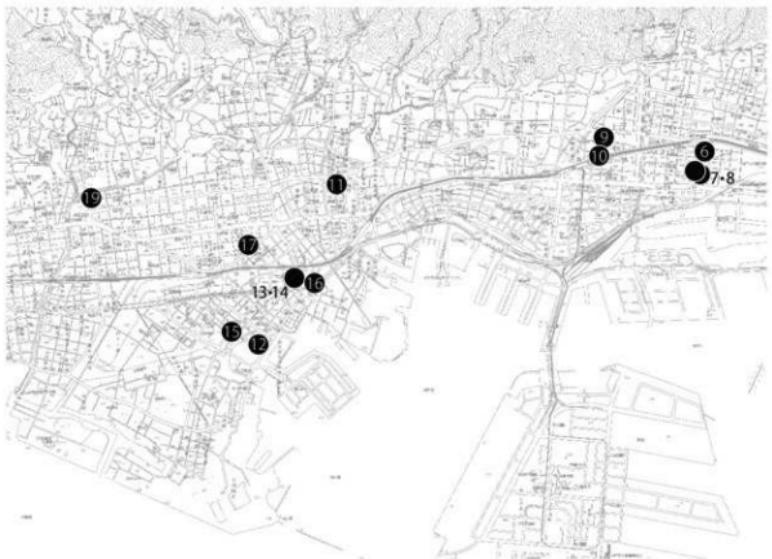


fig.9 調査地点位置図（2） 1:50,000



fig.10 調査地点位置図（3） 1:50,000

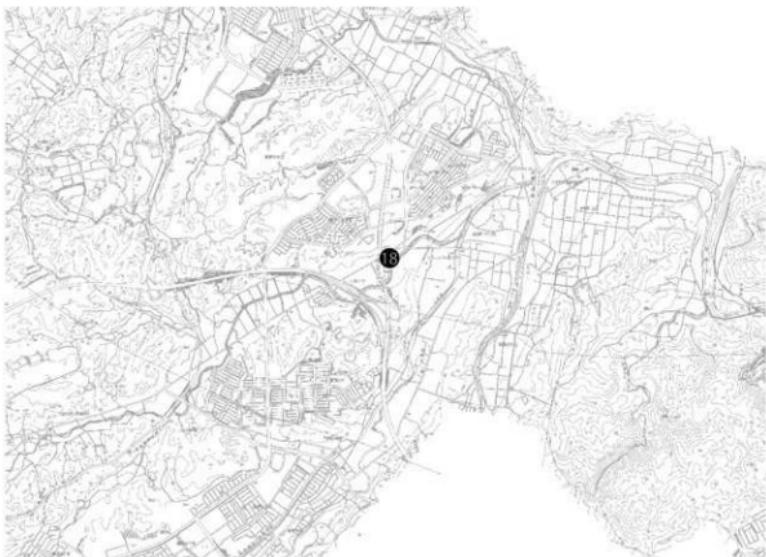


fig.11 調査地点位置図（4） 1:50,000

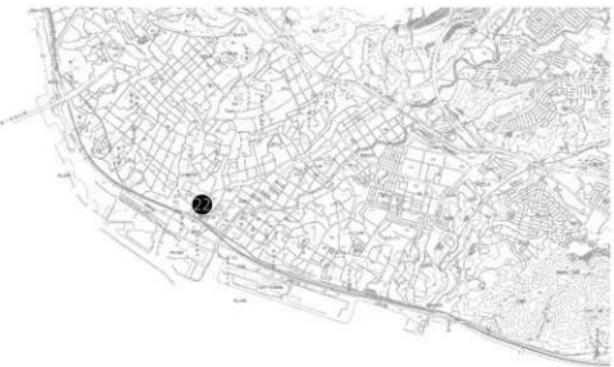


fig.12 調査地点位置図（5） 1:50,000

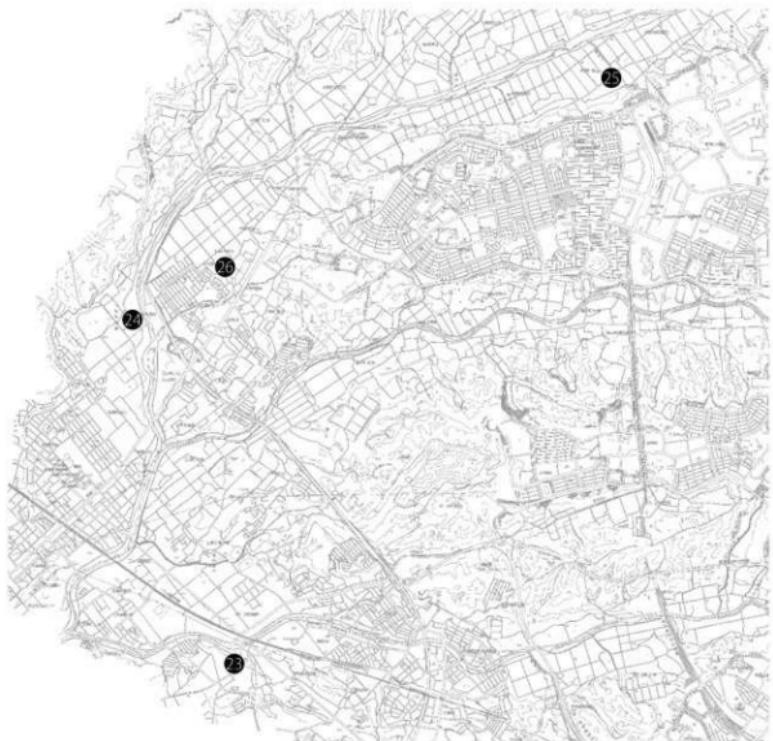


fig.13 調査地点位置図（6） 1:50,000

## II. 平成27年度の発掘調査

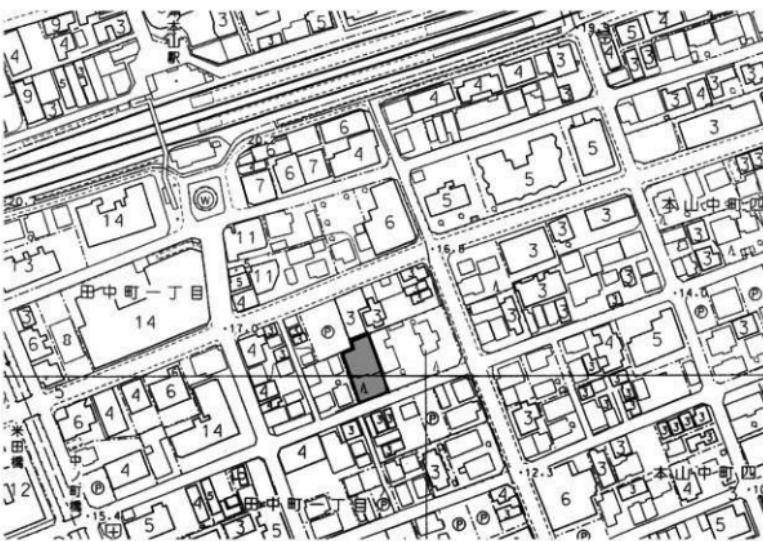
### 1. 本山遺跡 第40次調査

#### 1.はじめに

本山遺跡は、六甲山南麓から流れる複数の河川によって形成された扇状地上に立地する旧石器時代から中世までの複合遺跡である。遺跡の範囲は、北は現在の山手幹線付近から南は国道2号線南側付近までの約600m、東は要玄寺川から西は天上川までの約700mの間に広がる。標高8～24mの地点にあり、国道2号線は、繩文海進によって浸食されたとみられる海蝕崖とほぼ重なり、これが遺跡の南限を示している。

当遺跡では、旧石器時代のナイフ形石器を上限として、繩文時代草創期の有舌尖頭器、早期の神宮寺式土器、前期の大歳山式土器や中期の船元II～IV式土器が出土している(第19次調査)。繩文時代晩期には、再び当遺跡南部を中心に集落が形成される。中でも、弥生時代前期古段階にあたる木製農耕具(第16次調査)や中期の扁平紐式四区袈裟襟文銅鐸(第11次調査)が出土し、石器製作址などの生産域も確認されていることから、弥生時代前期～中期にかかる大阪湾沿岸の拠点集落となっている。

今回の調査地点周辺では、自然流路が多数検出されており、弥生時代の遺構が希薄な地域となっている。この地に人間の活動痕跡がみられるようになるのは古墳時代以降であり、JR東海道本線の南側に古墳時代前期の土坑(第32次調査)や古墳時代後期の土器、古代末～中世の溝や土坑(第8・29次調査など)が検出されている。



## 2. 調査の概要

今回の調査は、共同住宅建築工事に伴うものである。調査地はJR 摂津本山駅南東側の住宅街に位置し、北から南へ下がる緩斜面地上に立地している。工事計画により埋蔵文化財へ掘削が及ぶ範囲について、1～7区の調査区を設定して、発掘調査を実施した。

### 基本層序

盛土層下に旧耕土層及び旧床土層が存在し、この下層には、耕作地の造成に伴う整地層が部分的に存在していた。この整地層下には褐灰色粘質土（6層）があり、その下層に、調査地の東側では黒色混礫細砂（13層）と浅黄色砂質シルト（15層）が検出され、この上面に遺構面が検出される。4区では、浅黄色砂質シルト上面に明黄褐色混礫細砂の堆積があった。遺構面は南西側に向かって谷状に落ちる状況が確認され、調査区南西側では、黒色混礫細砂上面に黒褐色粘質土（11層）、黒色粘質土（12層）が堆積していた。

調査地の南端部は調査前の状況では、約1m前後の比高差で南側が下がる段となっていた。調査の結果、この付近の下層で近世～近代のものと考えられる石列が確認され、擾乱によって、調査区の南端は大きく改変を受けていた。また、調査地の北半は、従前建物に伴う土壤改良や

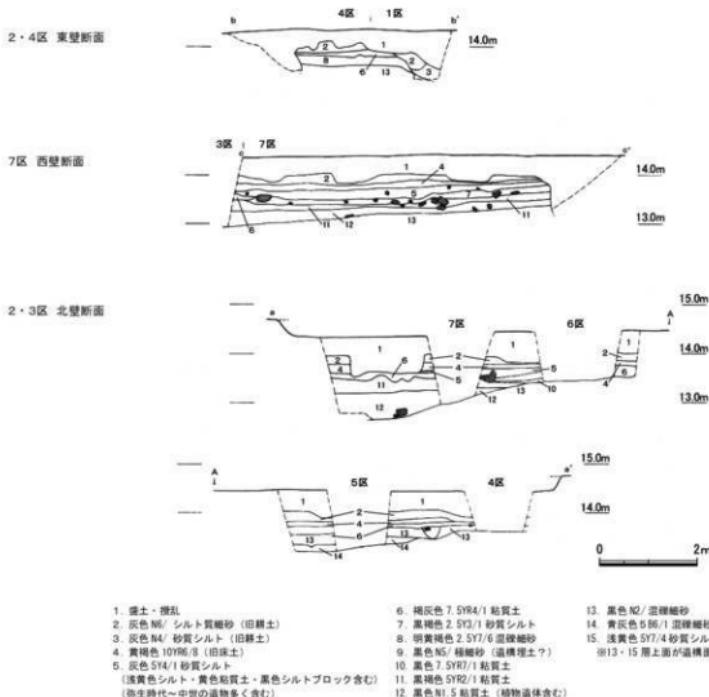


fig.15 土層断面図

基礎に伴う掘削等による改変を大きく受けており、埋蔵文化財の存在を確認することはできなかつた。

#### 湿地状の落ち込み

今回の調査では、遺構面は南西側へ谷状に大きく落ち込んでおり、4区では地表面からの深さ1.2mで遺構面を検出したのに対し、3区西端部では、地表面から2.1mの深さで黒色混礫細砂を検出し、さらに南西側へと下がって行くことを確認した。この谷状の落ち込みの埋土である黒褐色粘質土には、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器など、弥生時代中期頃及び中世の遺物が比較的多く含まれていた。

黒褐色粘質土下層の黒色粘質土には細かな植物遺体が含まれていたことから、調査地の南西側の大半は湿地状の様相を呈していたと推定され、中世には埋没したものと考えられる。

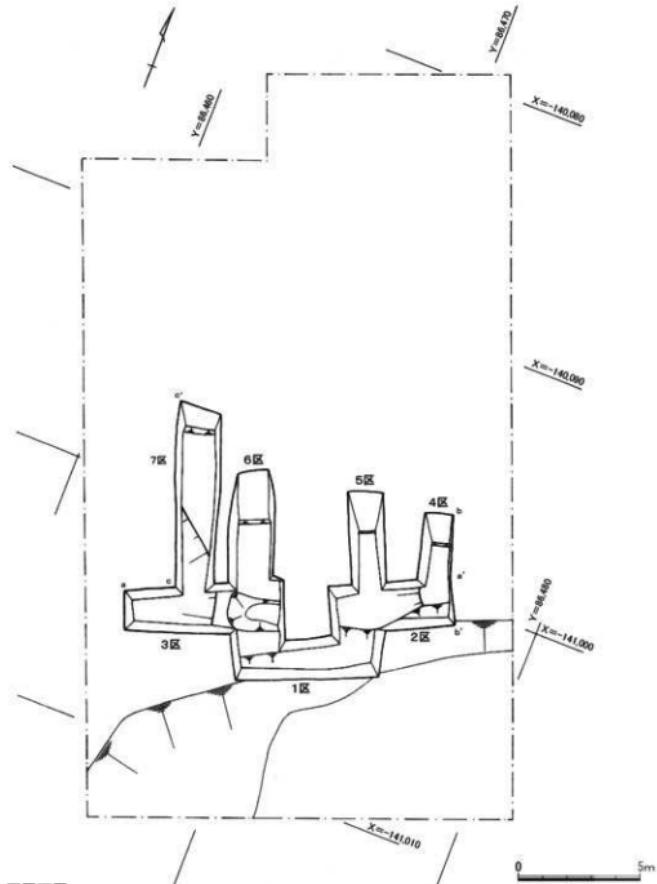


fig.16 調査区平面図

### 3.まとめ

今回の調査では、南西側へ向かって落ちる谷状地形が検出された。この谷状地形は、埋土の状況から湿地状であったと推定され、調査地外の南西側にさらに拡がるものと考えられる。

出土遺物は、谷状地形が埋没する過程で堆積土と共に流入したものと推定されるが、ローリング等の痕跡が顕著に認められないことから、調査地の近隣からもたらされたものであろう。出土遺物が微細であるため時期の特定は困難であるが、褐灰色粘質土（6層）に中世（14世紀代）と考えられる瓦器の羽釜などが含まれており、この頃までには埋没したと考えられる。

4区で検出した浅黄色砂質シルトは、安定した遺構面を形成するものと考えられ、調査地の北東及び東側に遺構・遺物の分布の可能性が考えられる。

これまでの調査成果では、調査地の北東で昭和62年度に実施した、第4次調査地点で弥生時代後期末の遺構・遺物が確認されているが、調査地の南東に近接する平成10年度第34次調査地点では、河道内から弥生時代中期後半（第IV様式）～古墳時代初頭頃にかけての遺物が出土、複数の中世（14世紀代）の溝が検出されている。

また、調査地の南東側に近接する平成11年度第33次調査地点では、弥生時代中期頃の流路や中世の溝が確認されていることから、調査地付近は集落の縁辺部に位置するものと考えられる。第33次調査では、西側へ落ちる流路の肩が検出されており、今回の調査地の東側には流路の存在が推定される。このことから、調査地の周辺には、北東～南西方向の複数の流路が存在し、今回の調査で確認された谷状地形への湿地状堆積は、地形の関係で淀みとなったものであろう。今回の調査は、本山遺跡の全体を考える上で、貴重なデータであるといえよう。



fig.17 調査区全景（南西から）



fig.18 調査区全景（南東から）



fig.19 2区北壁断面（南西から）

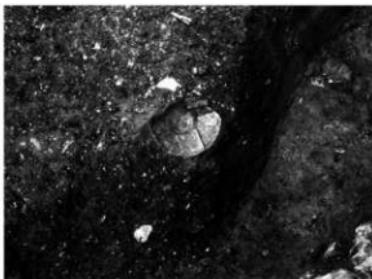


fig.20 2区遺物出土状況（南西から）

## 2. 岡本北遺跡 第11次調査

### 1. はじめに

岡本北遺跡は六甲山南麓の住吉川東岸の扇状地上に位置し、弥生時代～中世の集落遺跡として周知されている。

今回の調査は、個人住宅建設工事に伴うもので、工事の影響が及ぶ箇所において、5箇所のトレンチ（1～5区）を設定して調査を進めた。



fig.21 調査地位置図 1:2,500

### 2. 調査の概要

当該地においては、4月16日に試掘調査(T.P.1)を実施しており、古墳時代の遺構面を検出し、溝状遺構等を確認している。今回の調査は、工事の影響深度が遺構面に及ぶ箇所において実施した。

層序については、約20cmの盛土の下に、10～15cm程度の旧耕土層が存在し、その下層が基盤層で、その上面が遺構面となる。また、旧耕土層と基盤層の間に、整地層（5cm程度）が存在する箇所も有する。



fig.22 土層断面柱状図

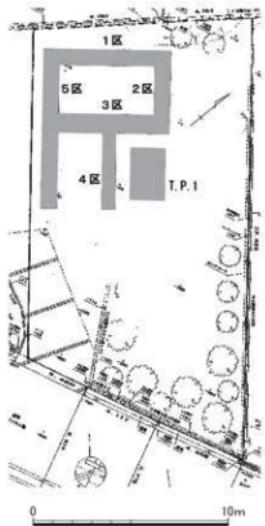


fig.23 調査区配置図

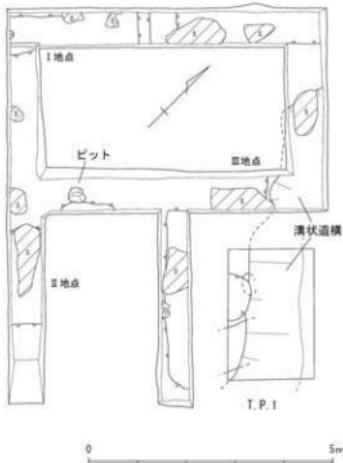


fig.24 調査区平面図

遺構は、3区で小規模なピット（径30cm、深さ26cm）、2区では、T.P. Iにおいて確認した溝状遺構の延長部分（工事影響深度から、上面のみの確認を行った。）を検出した。

出土遺物は、2区およびT.P. Iの溝状遺構上面より弥生土器、土師器、須恵器、1区の旧耕土層より土師器、須恵器の小片を、それぞれ確認した。溝状遺構の遺物の時期は、弥生時代～古墳時代に属すると考えられるが、概ね古墳時代後期の所産と推察される。また、旧耕土層の遺物は、中世に属すると考えられる。

### 3.まとめ

今回の調査地は、平成7年度に実施した第2次調査地の北側に接するが、遺構の分布は希薄で、遺物包含層も存在しないことから、耕作地造成時に遺構面（基盤層）が削平を受けている可能性が高い。

2区およびT.P. Iで確認した溝状遺構は、西側の肩部のみの確認にとどまったため、全容は不明ではあるが、第2次調査地において確認できなかった古墳時代後期の遺構の検出は、今後の周辺における調査の指針となりうる成果と考えられる。



fig.25 調査区全景（北から）

### 3. 郡家遺跡 第92次-b調査

1. はじめに

東灘区御影町中一帯に所在する郡家遺跡は、1987年以來、30年以上にわたり調査が繰り返されてきた。これまで弥生時代中期から古墳時代後期までを中心とした集落関連遺構のほか、奈良時代、中世の遺構なども確認されているが、集落の最盛期は弥生時代中期から古墳時代中期ないし後期頃と推測され、隣接する住吉宮町遺跡の古墳群の造営主体となった集団の居住地ではないかと考えられている。

また、朝鮮半島からの渡来人の存在を示す「韓式系土器」の出土例が多く、渡来人の集住地としても注目される遺跡である。

その他「郡家」の地名から、古代律令期の官衙の存在も想定されている。

## 2. 調査の概要

今回の調査は集合住宅建設に伴うもので、第92次に当たる。工程の便宜上調査区を2分割し、東半部については平成26年度に92次-aとしてすでに完了している（I図）。今年度は西半を92次-bと呼称し、さらにII区・III区に分けて順次着手した。

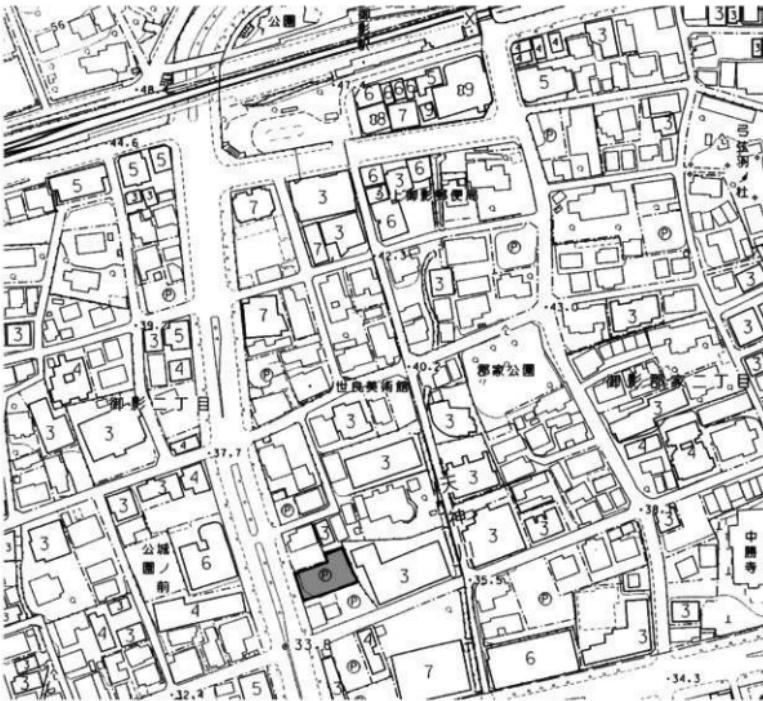


fig.26 調査地位置図 1:2,500

## 基本層序

今回調査地の層序は、基本的に第92次-a調査に準ずる。地表面は約20cm～25cmの厚さで①アスファルト舗装及び②路盤の碎石である。これらを取り除いた下層に③近現代の盛土層、さらにその下層に④近世ないし近代の旧耕作土層、この旧耕作土層の直下に⑤古墳時代後期の可能性が高い土器を出土する砂層となる。この層は堆積場所によって粒度の粗密に大きな差があり、極粗砂～細砂まで見られる。洪水等の一過性かつ急速な水流に由来する堆積と考えられる。

上記古墳時代洪水砂を取り除いた直下の⑥明黄橙色系の砂層が第1遺構面である。ただし、調査区南半に

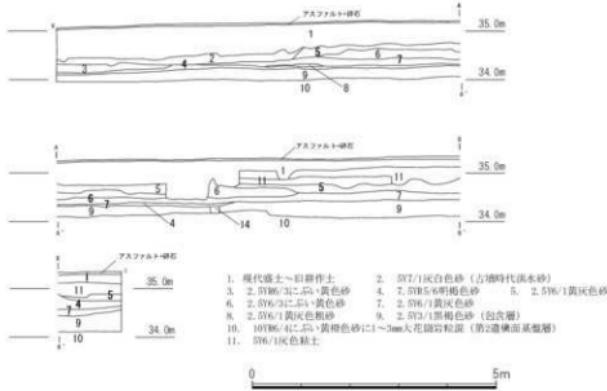
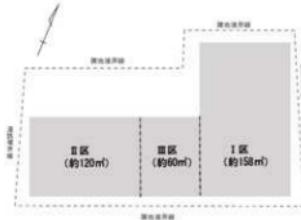
ついては、近現代の擾乱が著しく、第1遺構面の基盤となる砂層は部分的にしか残存していないかった。第1遺構面基盤層を除去した直下には、⑦褐色系の遺物包含層が堆積している。この遺物包含層の直下が⑧第2遺構面となる明褐色系の砂層である。

第92次-a調査との違いは、⑦遺物包含層がきわめて厚い点だが、これは南西方向へ下がる谷地形上に遺跡が位置することに起因すると考えられる。

## 第1遺構面

直径10～20cm程度、深さ10cm未満のピットを複数確認した。いずれも直上に堆積する洪水砂と全く同質の埋土を持つ。人為的な遺構でない可能性も考えられる。

ピットのほか、浅い楕円形の凹み（SK101）も1基確認している。埋土中から11世紀代と考えられる東播系須恵器捏鉢の破片が1点出土したが、出土状況からは混入なのか、遺構に伴うものかは判定しがたい。



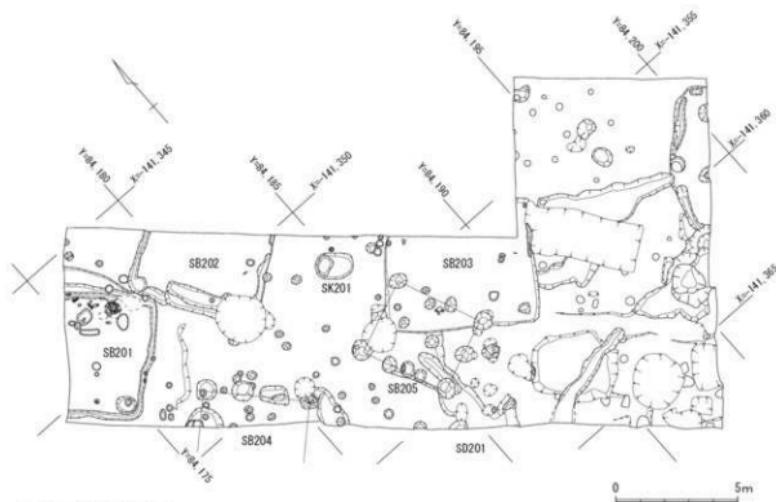


fig.29 調査区平面図

## 第2 遺構面

方形堅穴建物3棟、掘立柱建物2棟、溝1条、ピットを複数確認している。ピットは直径15～30cm程度、深さは10～30cm未満のものがほとんどである。互いの配置に関連性はなく、規則性もない。

**堅穴建物SB201** 調査区北西端で検出した方形建物である。真北に対し、35度程度東に軸が振れる。検出できたのは東面と西面の一部と南面で、北面は調査区外となる。検出範囲全体に周壁溝が巡り、床面北側には竈痕が確認できる。全長が判明している南面は長5.0m、周壁溝は幅25cm、深さ3cm程度である。壁体の立ち上がりは25～30cm程度を測る。全体が検出されていないため、建物平面プランが方形か正方形なのかは判断不可能である。

床面でピットが数基確認されているが、いずれも5cm未満と浅く配置に規則性がないため、主柱穴ではないと判断した。床面に柱穴を有しないタイプの堅穴建物の可能性が考えられる。

竈痕は、北壁中央付近にわずかに焼土面があり、周辺に炭片が散布していたもので、竈本体は確認できなかった。ただ焼土とともに、甕、瓶、高杯脚部などが一括出土しており、竈痕と判断できる。

竈痕以外にも、須恵器、土師器の破片が床面から多数出土している。おおむね5世紀代と考えられる。また土器と共に、U字形鋤先の完形品が出土している。

**堅穴建物SB202** SB201の南東隅と、隅が接するようにして検出した方形建物である。真北に対し55度程度東に軸が振れる。検出できたのは南面と北面の一部と西面で、東面は調査区外となる。周壁溝が全周していたと推測されるが、残存状況が悪く、一部途切れた状態で確認された。西面は攪乱で南西隅が失われているものの、全長が推測可能である。西面長5.5m、周壁溝の幅25～45cm、深さ3cm程度の規模であろう。壁体の立ち上がりは30cm程度を測る。全体が検出されていないため、建物平面プランが長方形か正方形のかは判断不可能である。こ



fig.30 II区全景（北西から）

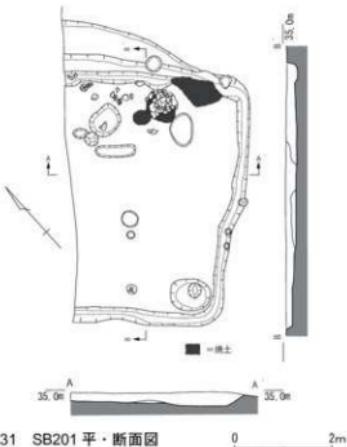


fig.31 SB201 平・断面図



fig.32 SB201 竈痕土器出土状況（南東から）



fig.33 SB201 竈痕土器出土状況（南から）

の建物の床面でピットが1基確認されているが、径が小さく深さも浅い。柱穴ではないと判断した。SB201 同様床面に柱穴を有さないタイプの竪穴建物である可能性が考えられる。

床面からは須恵器、土師器の破片が多数出土している。おおむね5世紀代と考えられる。土器と共に伴して、鉄刀子が1点出土している。

**竪穴建物SB203** SB202 の東約4.5m地点で検出された方形建物である。真北に対し、35度程度東に軸が触れる。SB201と近い軸方向である。検出できたのは南面、東面と西面の一部で、北面は調査区外となる。周壁溝は残存状態が悪く、部分的な検出にとどまった。南面の長6.0m、西面長5.0m、周壁溝の幅20cm、深さ2cm程度で、建物平面プランは長方形である。

床面でピットが12基確認されているが、このうち掘立柱建物SB205の柱穴が切り合った3基

を除く9基がこの堅穴建物に属する遺構の可能性がある。これらは径10~30cm程度、深さ5~30cm前後とばらつきがあり、確実に主柱穴と判断できるものはなかった。

床面からは須恵器、土師器の破片が多数出土している。おおむね5世紀代と考えられる。土器と共に、鐵刀子が1点出土している。

**掘立柱建物SB204** SB202の西側で検出された。5基の柱抜き取り穴が東西列に3間×南北列1間以上の配置で並ぶもので、建物北および東隅が確認できるものの、南と西隅は調査区外にあたり桁・梁の方向は不明である。柱列全体が検出された東西列の柱間総長は4.3m程度と推測されるが、柱芯が不明のため、およその値である。柱間寸法は1.4~1.6m前後と推定されるが、これも厳密ではない。建物全体の規模は不明、柱径も不明である。真北から35度程度西に振れる軸を持つ。

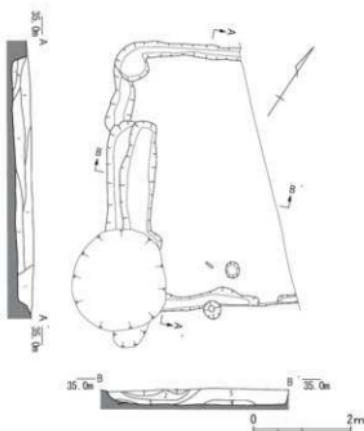


fig.34 SB202 平・断面図

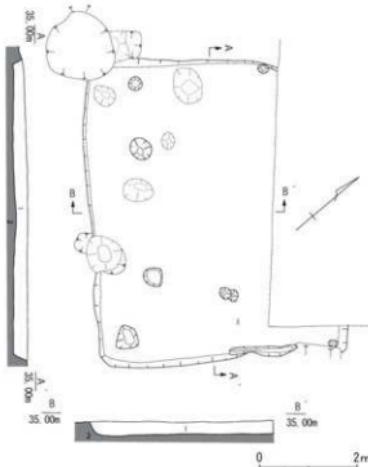


fig.35 SB203 平・断面図

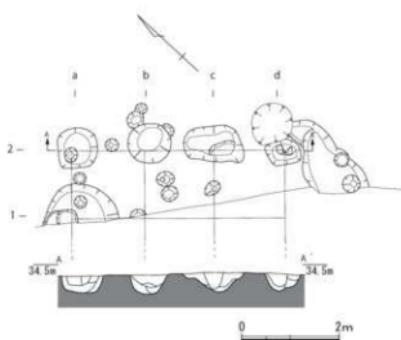


fig.36 SB204 平・断面図

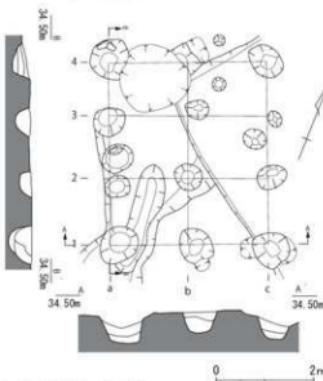


fig.37 SB205 平・断面図

出土遺物がほとんどなく、時期は判定したい。上位の遺物包含層の時期から判断して、弥生時代末から古墳時代中期までのどこかと考えられるが、その他の建物群との時期差は不明である。

抜き取り穴は不整形で形状、深さに多少ばらつきがあるが、おおむね 20 ~ 60cm 前後、深さも 50 ~ 60cm 前後である。

**掘立柱建物SB205** S B203 と切り合って検出された。桁行 3 間梁行 2 間の南北棟の掘立柱建物を、柱抜き取り穴の状態で確認している。柱間総長は桁行 3.8m、梁行 3.2m 程度と推測されるが、柱芯が確定できないため、およその値となる。同様に柱間寸法も、桁行方向 1.2 ~ 1.4m 前後、梁行方向 1.6m 前後のどこかに収まると考えられるが正確な数値は不明である。柱径も不明。真北から 25 度程度西に振れる軸を持つ。

抜き取り穴は 12 基確認されており、総柱建物と分かる。多少柱筋が振れているが、たとえば京呂組のような梁の通りを一致させる必要のない上部構造を推定することは可能である。

抜き取り穴は不整形で形状、深さにばらつきがあるが、おおむね 60 ~ 80cm 前後、深さも 30 ~ 50cm 前後である。出土遺物がほとんどなく、時期は判定したい。上位の遺物包含層の時期から判断して、弥生時代末から古墳時代中期までのどこかと考えられる。

S B203 の埋土上面では S B205 の抜き取り穴は認識できず、S B203 完掘後、その床面直上で確認した。ただし両者の埋土は酷似しており、切り合いを認識できなかった可能性も残るため、当該建物が S B203 に先行すると断言はできない。

**溝SD201** S B205 に切られる遺構である。出土遺物から判断して、弥生時代末ないし古墳時代初頭までの時期の遺構と考えられる。深さ 10 ~ 25cm 程度、幅 1.4 ~ 2.6m 程度で、平面は不整形である。人為的な遺構なのか、自然地形の落ち込みなのか判断が難しい。

### 3.まとめ

今回第2遺構面上で検出した遺構の内、最古は SD201 と考えられる。竪穴建物および掘立柱建物については、時期的前後関係は不明である。竪穴建物はいずれもおおむね 5 世紀代に収まる可能性が高いが、S B201 と 202 は著しく近接しているため、共存は不可能と判断してよい。

掘立柱建物については、時期の確定が不可能である。

建物軸方向を鑑みた場合、S B201 と S B203、S B204 には共通性があり、S B202 と S B205 は比較的近い値である。したがって前後関係は不明ながら、5 世紀代を中心二時期の建物群を想定しうる。

竪穴建物はいずれも床面に主柱穴を確認できないという共通性がある。主柱に頼らない構造の小屋組みであった可能性を考慮する必要がある。



fig.38 Ⅲ区全景（東から）

## 4. 篠原遺跡 第34次調査

### 1. はじめに

篠原遺跡は古くから縄文時代の遺跡として著名で、とくに縄文時代晩期を中心とした遺構、遺物が多く見つかっている。しかし過去の調査では、弥生時代から古墳時代初頭頃の遺構・遺物も確認されており、その実態は長期間にわたる複合的な集落遺跡と考えられる。

### 2. 調査の概要

今回の調査は、民間事業者による土地開発に伴うものである。当該地は従前の建物による損壊が著しく、敷地の南半分および東端はすでに遺構面より深い層まで削平されていた。調査を実施したのは、工事予定範囲のうち、遺跡が残存する部分についてのみである。

#### 基本層序

着手前の地表面より約1.3m前後掘り下げた標高70.7m前後地点で、鎌倉時代ないし室町時代頃の遺構面を確認したが、遺構密度は極めて低く、出土遺物もごくわずかだった。遺構面を形成する層は無遺物だが、地山ではない。

遺構面基盤層より上位は、現代の盛り土を除けば、旧耕作土あるいは滯水性の自然堆積層が2~3層である。この層からは、ごく少量の中世土器や古墳時代の土器片が出土したが、時期にはばらつきが認められた。



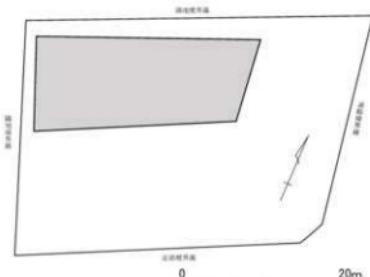


fig.40 調査区配置図



fig.41 下層確認トレンチ（西から）

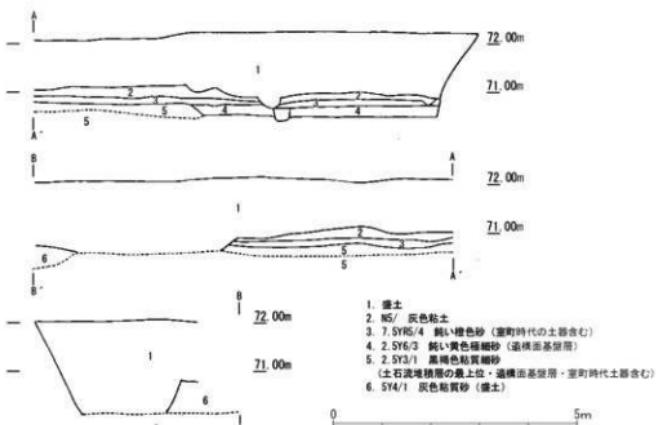


fig.42 土層断面図

遺構面基盤層となる無遺物層は、調査区の西側1/3が風性の堆積層、東側2/3は北側からの土石流によって短時間で形成された水流性の層である。どちらの上面にも、時期差のない遺構が残されていることから、この2層から形成される南および東に傾斜する斜面が、中世遺構面と判断してよい。なお土石流堆積層はレンズ状に収斂されるため、一つの面をなす二層の層序を判定するのは困難であった。

中世遺構面以下層については、調査区の南辺にそって1m×15m程度のトレンチ、北西・北東隅に1m×1m程度のテストピットを1か所ずつ設定して確認作業を行った。このうちトレンチおよび北東テストピットで、1.5m以上の厚さで堆積する旧河道層を確認しており、中世以前、当該地は調査区ほぼ全体を包括するような、大規模な河川であったと分かった。この河道からは、わずかに1点、弥生土器の小片が出土しており、埋没時期を示す可能性が高い。

トレンチ内で一部、旧河道層を掘削したさらに深い部分で、土石流堆積層に似た岩石群に到達したが、掘削深度が地表面から3mを超えたため安全確保のためここで調査を終了した。

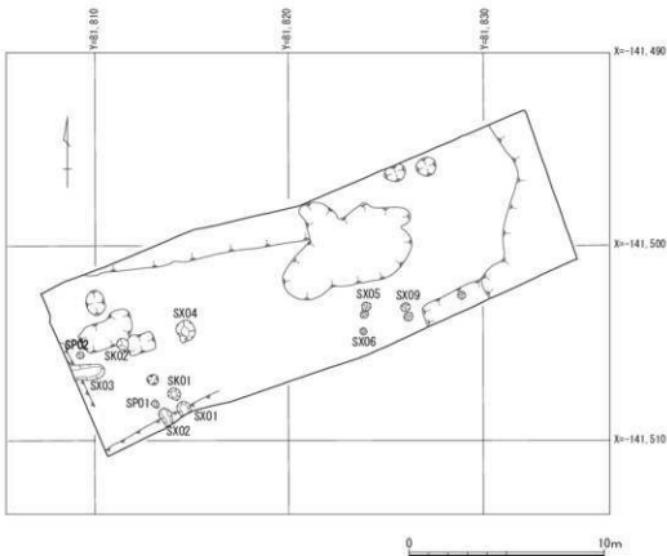


fig.43 調査区平面図

## 検出遺構

ピット2基(S P)、土坑2基(S K)、不定形な形状等で、性質の不明な遺構(S X)7基を確認した。S Xと遺構名を付したものの中には柱穴の可能性があるものも含まれるが、その一方、特に土石流堆積層上面で検出したものに、土石流内のブロック状の粘土と考えられるものも含まれる。著しく不定形の平面形で、底に向かって極端に狭くなったり、逆にオーバーハングして袋状に内側が広がるなど、人為的構造物として形を成さない、疑似遺構様の自然堆積である。

掘り下げの結果、明らかにそう判断できるものは遺構名を付せず、図面上で攪乱表記としたが、判定しがたいものに関しては、S Xとして遺構表記にした。

**ピットSP01・SP02** どちらも直径40cm、深さ20cm程度の規模だが、埋土は単層で、柱痕はない。ごくわずかに土器片を出土するものの、遺構の性質を判定するほどではない。

**土坑SK01・SK02** いずれも直径60cm、深さ25cm程度の不整円形である。埋土はピットと同質の単層で、ごくわずかに土器片を出土するものの、遺構の性質を判定するほどではない。

**不明遺構SX01・SX02** 調査区西端で確認されている。S X01は直径65cm、深さ50cm、S X02は検出長1.1m、深さ25cm程度だが、どちらも調査区外に続いており、全体像は不明である。埋土は上記の遺構群同質の単層である。ごくわずかに土器片が出土しているが、時期や性質を確定するには至らない小片ばかりである。

**不明遺構SX05・SX06** 調査区中央付近、土石流堆積層の上面で検出した。断面観察の結果、柱穴の可能性が認められる遺構である。

S X05 は直径 1.1m、深さ 30cm 程度だが、断面柱痕状の堆積を呈し、底面に礎板石の可能性がある石も確認した。

S X06 は直径 60cm、深さ 50cm 程度だが、埋土が単層でなく、断面柱痕状の堆積を呈する。この 2 基については、形状的に掘立柱建物柱穴の可能性があるが、互いの距離は 2.6m 程度あり、同一建物の柱間としてはやや広すぎる。周間に組み合うほかの柱穴もない。

どちらの遺構からも中世と思われる土器片が出土しているが、細片のため詳細は不明である。

### 3. まとめ

当該調査区は、弥生時代には大規模な旧河川であった。調査地東方に六甲川が南流しており、その旧河道、あるいは支流、氾濫原などの可能性が考えられる。

河道の埋没後、土石流および風性の堆積作用が交互に起こり、現在の地形に近い、南および東に向かって下る斜面を成した。そこに鎌倉時代ないし室町時代頃に遺構が作られたものの、あきらかに住居址と判断できるものは見つからず、本調査だけでは中世の段階で当該地が集落だったのかそれ以外の土地利用だったのか、断定するに至らない。

今回の調査結果は、縄文時代から古墳時代初頭までの遺跡として知られる篠原遺跡の、過去の調査歴とは若干異質であった。これまでに検出された遺構と面的な整合性を求めるならば、中世遺構面の下層で確認した旧河道層を完掘した状態がそれにあたるが、トレンチ調査の結果は旧河道堆積層の遺物含有量は著しく低く、人間の活動痕跡は極めて薄いものであったため、全体的な調査は不要と判断した。

ただし今後周辺地域で調査を行う際は、従来想定されている時期以外に、その上位層で中世遺構が存在する可能性に留意すべきであろう。



fig.44 遺構面検出状況（東から）



fig.45 調査区全景（東から）

## 5. 篠原遺跡 第35次調査

### 1. はじめに

篠原遺跡は、六甲山系より大阪湾へと流出する、六甲川により形成された扇状地の標高約85～50mの扇頂部～扇央部に立地する縄文時代～古墳時代・中世の遺跡である。昭和4年に小林行雄氏により、主に弥生時代後期の遺跡として紹介され、縄文時代晩期の土器棺の報告も行われるなど、六甲山南麓地域で古くより知られる遺跡の一つである。昭和58年度に共同住宅建設に伴い第1次調査が行われて以来、これまでに30回を超える発掘調査が実施されている。

第1次調査では、縄文時代中期末～後期の堅穴建物跡や、縄文時代中期末～晩期の土器、石器など多くの遺物が検出された。

また、同年度に実施された第2次調査では、縄文時代晩期中頃の東北地方の亀ヶ岡式系土器や遮光器土偶などが出土し、出土遺物を整理した家根洋多氏により、篠原遺跡を標識遺跡とする「篠原式土器」が提唱されている。

この他、平成2年度の第6次調査でも、縄文時代晩期の土器棺墓や集石遺構、原石や未製品を含む大量のサヌカイト製石器が検出され、石器製作跡の可能性が指摘されるなど、縄文時代晩期を中心とした、六甲山南麓地域を代表する縄文時代の集落遺跡の一つである。

また、これまでの調査では、弥生時代後期の堅穴建物などの遺構や、弥生土器、石器などの遺物が多数確認されており、弥生時代後期の集落遺跡としても知られている。平成7年度の第12次調査では小型彷製鏡が出土している。

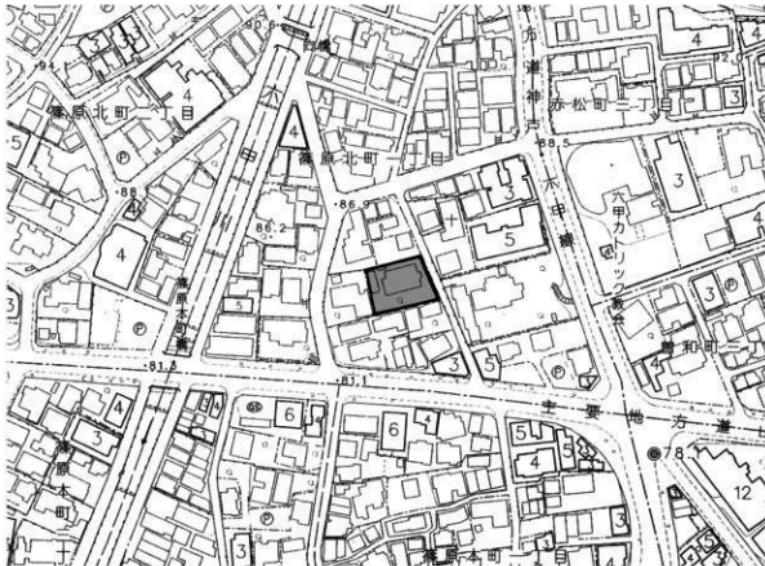


fig.46 調査地位置図 1:2,500

## 2. 調査の概要

今回の調査は、宅地造成工事に伴うものである。調査地はこれまで周知の埋蔵文化財包蔵地である篠原遺跡の北東側隣接地であったが、試掘調査によって遺構・遺物の存在が確認され、篠原遺跡の範囲がさらに北東側へ拡がることが判明した。調査地は南へ向かって傾斜する住宅地に位置する。

発掘調査は、工事により影響を受ける街路擁壁設置部分（1・3区）及び污水管理設部分（2区）について実施した。擁壁設置部分については工事掘削影響深度内の発掘調査である。

### 基本土層

盛土層下に弥生時代後期の遺物包含層である黒褐色細砂層が存在する。各調査区の東半は後世の攪乱による影響を受けていた。なお、2区西半では盛土層下に土石流に伴う堆積層が存在し、その下層に遺物包含層を確認した。この遺物包含層下の褐灰色細砂層などの上面で遺構面を検出した。また、各調査区の東半では、遺物包含層と遺構面の下へと西側に向かって落ちる土石流を確認した。



fig.47 土層断面図

### 1区

調査地の北東側に位置する擁壁設置部分である。

東半は後世の攪乱の影響を大きく受けているが、土石流を検出した。縄文時代後期頃と弥生時代中期後半頃の遺物が出士している。

西半ではその上層に遺物包含層（黒褐色細砂層）と遺構面を検出したが、遺構は確認されなかった。



fig.48 調査区配置図

## 2区

調査地の中央部東寄りに位置する汚水管埋設部分である。調査区西半で遺物包含層（黒褐色細砂層）を検出した。遺構面は東半で一部が後世の搅乱の影響を受けていたが、調査区西半では全体的に遺存しており、土坑2基、ピット8基を検出した。

**土坑** SK01は東西3.5m以上、深さ0.5m前後の落ち込み状の遺構である。弥生土器片が出土した。SK02は東西幅1.0m、深さ0.2mの土坑である。遺物の出土はなかった。

**ピット** 検出したピットは直径35～50cm前後、深さは15～35cm前後である。建物等としてのまとまりは確認することはできなかった。SP01・02から弥生土器片が出土した。

## 3区

調査地の南東側に位置する擁壁設置部分である。調査区の東半は後世の搅乱の影響を受けており、盛土直下に遺構面である黄褐色極細砂を検出し、一部ではその下層の明黄褐色混疊細砂層を検出した。調査区西半では、遺物包含層である黒褐色細砂層を検出したが、遺構面は西側へ急激に落ちており、工事掘削影響深度内で検出することはできなかった。

### 弥生時代中期の土石流

土石流は、調査地の北側の六甲山系から流れて来たものと考えられる。出土遺物はやや磨滅を受けていることから、土砂と共に流出して来たものであろう。出土遺物の多くは、弥生時代中期後半（第IV様式）頃のものであり、わずかに縄文時代後期頃の土器片が含まれていた。この土石流の上面に遺構面と弥生時代後期の遺物包含層の堆積が確認されることから、弥生時代中期後半段階での土石流と推定され、調査地の北方に当該期の遺構の存在が想定される。

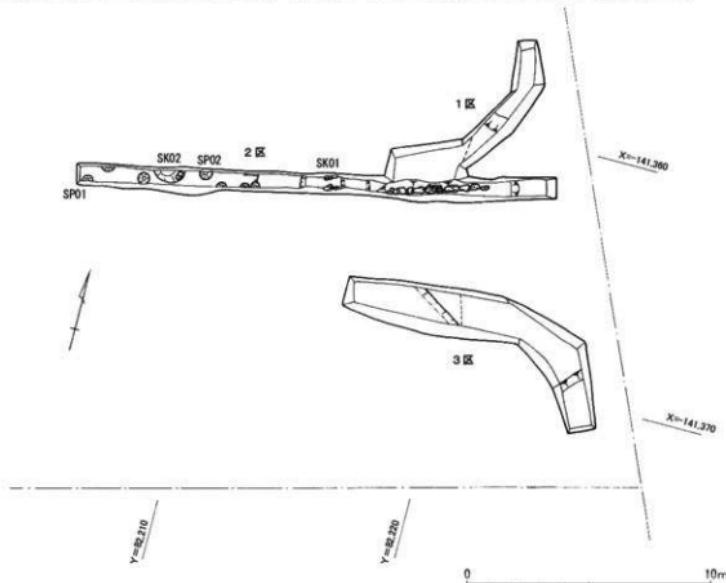


fig.49 調査区平面図

### 3.まとめ

今回の調査では、弥生時代後期の遺物包含層を確認し、遺構面からはピット、土坑などを検出した。また、土石流からは縄文時代後期頃と弥生時代中期後半頃の遺物を検出した。

篠原遺跡の弥生時代中期についての状況は、平成21年度の第28次調査や平成24年度の第31次調査などで、弥生時代中期頃と考えられる竪穴建物が確認されているのみで、遺跡全体での集落域の様相は未だ明らかではない。今回の調査地北西の六甲川西岸長峰山南麓斜面上には、弥生時代中期～後期にかけての高地性集落である伯母野山遺跡が所在しているが、六甲川東岸の現在の神戸大学付近では、これまでに当該期の遺跡は未確認である。今回出土した遺物については、これら六甲川が緩斜面地へ流出する地点付近の斜面上に立地する遺跡との関係を含めて検討する必要があろう。

当該地では弥生時代中期後半頃の土石流後、弥生時代後期に入り遺構面が形成されたものと推定される。3区西半では、遺構面が西へ向かって急激に落ちる状況が確認されたことから、調査地の南西側に谷状の落ち込みの存在が推定される。遺構は2区西半でまとまった分布が見られ、周囲への遺構の拡がりを示唆するものである。今回出土した遺物は、概ね弥生時代後期を中心とした時期が考えられる。

これまでの篠原遺跡における発掘調査では、弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての濃密な遺構・遺物の分布が確認されているが、当該期の竪穴建物の分布については、六甲川東岸の阪急六甲駅西側の篠原中町2・3丁目付近でのまとまりと六甲川西岸に点在的な分布を見ることができるが、詳細な集落域の範囲の特定までには至っていない。今回の調査における、弥生時代後期の遺構・遺物の検出は、これまでに不明であった範囲での遺構・遺物の確認と、その分布がさらに拡がる点を示唆するものとして、貴重なデータと言えよう。



fig.50 1区全景（南西から）



fig.51 2区全景（西から）



fig.52 3区全景（西から）

## 6. 日暮遺跡 第43次調査

### 1. はじめに

日暮遺跡は神戸市中央区日暮通・吾妻通・八雲通・東雲通・筒井町一帯に拡がる遺跡で、昭和61年に市営住宅建設に伴う発掘調査によって発見された。これまでに40回を超える調査が行われ、弥生時代末から中世にかけての集落遺跡であることが明らかになっている。とりわけ古墳時代前期の堅穴建物群、奈良・平安時代の掘立柱建物群が見つかっており、これらの時期に集落が盛んであったことが窺える。

また、これらの建物群は各時代によって集落を形成する場所が若干の重なりはあるものの、概ね南北に分かれており、土地利用の変遷が窺い知れる。

出土遺物の中に網漁に用いる土錐や蛸壺が多く認められることから、時代を通じて海に関わりの深い人々が居住していたと思われる。



fig.53 調査地位置図 1:2,500

### 2. 調査の概要

当該地付近は六甲山南麓の小河川によって形成された扇状地末端に位置し、標高17m前後を測る。周辺の地形は、概ね北から南に傾斜している。

今回の調査は、建築工事によって遺跡に影響が及ぶ範囲内の発掘調査を実施した。調査に伴う掘削残土の仮置き場の確保のために調査範囲を3分割し、調査順に北側の調査区を1区、南側の調査区を2区、中央の調査区を3区とした。

調査地は現況の駐車場以前は庭園・宅地として利用されていたようで、無筋コンクリート製の建物基礎や石造りの側溝、大きな庭石などを機械掘削時に確認している。それらの設置・解体工事に伴う掘削によって、遺物包含層と遺構面の一部は損壊されているものの、概ね良好に遺跡は保存されていた。

## 基本層序

基本的な層位は以下の通りである。

1. 黄褐色粗砂・再生碎石（駐車場造成時の整地土）
2. 褐色土（戦災後の整地層：ガレキ・コンクリート・石・レンガ・焼土・炭等を含む）
3. 褐色系の砂質土（戦災前の宅地層：上面が薄い炭層に覆われる）
4. 黄褐色砂質土（江戸時代～明治時代の耕作土）
5. 褐色砂質土（鎌倉時代～室町時代の遺物包含層）
6. 暗褐色粘質土（南側は灰色味を帯びる。古墳時代の土器を含む。この層の上面が第1遺構面）
7. 黒褐色粘質土（土器は含まれない。この層の上面が第2遺構面）
8. 黄灰褐色細砂～中砂（よく縮まり固い。無遺物層）

現況地表面から褐色砂質土までは約1m、第1遺構面までは約1.2m、第2遺構面までは約1.6mほどである。

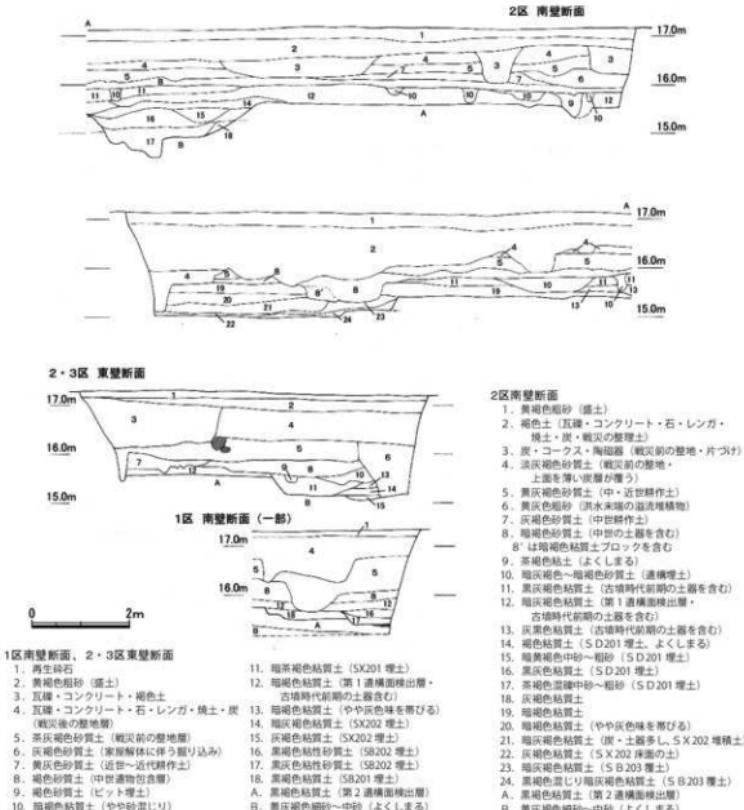


fig.54 土層断面図

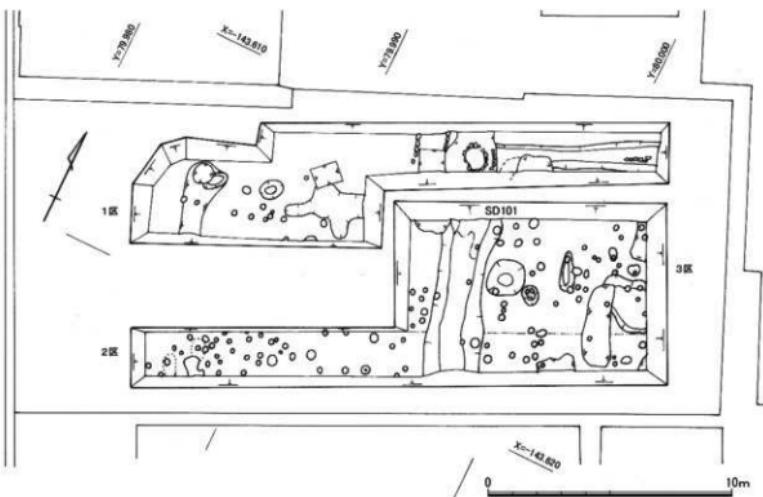


fig.55 第1遺構面平面図

### 第1遺構面

鎌倉時代～室町時代の柱穴、ピット、土坑、溝を検出した。2・3区に遺構が集中し、その密度は高い。また、2区では太平洋戦争末期に米軍が投下した焼夷弾が1本、遺構面に突き刺さった状態で見つかった。

**柱穴・ピット** 1～3区で合計約120か所の柱穴・ピットを検出した。直径15～20cm前後の円形のものが多い。その一部には根固めの円礫を据えているものもある。これらのはほとんどが掘立柱建物や柵列を構成すると思われるが、調査範囲内では建物規模を明らかにすることはできなかった。柱穴・ピット内からは鎌倉時代末～室町時代初め頃の土器、陶磁器が出土した。また2区の柱穴の一つからは石製硯の破片が出土し、3区のピットからは銅錢（錢文不明）を1枚発見した。

**土坑** 1～3区で4か所、大きく掘り込まれた穴が確認された。不整形や梢円形のものなど形状は不定であるが、廃棄物を投棄するためのものと思われる。埋土内からは鎌倉時代末～室町時代初め頃の土器、陶磁器が出土した。

**溝SD101** 1区東半部では、東西方向に延びる溝を確認した。幅は1m前後、深さは30cm程度である。東側は調査区外に延び、西側は近世末～近代（幕末～明治）の井戸や石闌みの土坑に削られている。また、2・3区では南北方向に延びる溝が検出された。幅は2～2.5m、深さは約30cmである。南側は調査区外に延びるが、北側は未調査部分を挟んで、先述の井戸付近に至る。溝内から出土した遺物はいずれも鎌倉時代末頃～室町時代初め頃の土器、陶磁器を含む。

### 第2遺構面

第1遺構面である暗褐色粘質土は古墳時代初め頃の土器を多く含む。この層を除去すると遺物を含まない黒褐色粘質土が現れ、この上面で古墳時代初め頃の堅穴建物、土坑、ピット等を

確認した。

**竪穴建物SB201・202** 1区西端部で2棟が重複している竪穴建物を検出した。いずれも大半が調査区外に延びているため正確な形状・規模は明らかでないが、南側の2区西端ではその続きが確認されないことから、一辺5m程度の方形住居であろうと推測される。土層観察の結果、最初に東側のS B201が掘り込まれ、住居が廃棄されてある程度埋没した段階で、西に少しづれてS B202を新たに設けたことが判明している。S B201では床面に柱穴、S B202では床面の一部が焼けた痕跡を検出した。また周壁付近で小型鉢が床面からやや遊離して出土した。いずれの住居も出土遺物は、古墳時代初め頃のものである。



fig.56 1区第1遺構面全景（西から）



fig.57 1区第2遺構面全景（西から）



fig.58 2区第1遺構面全景（西から）



fig.59 2区第2遺構面全景（西から）



fig.60 3区第1遺構面全景（西から）



fig.61 3区第2遺構面全景（西から）

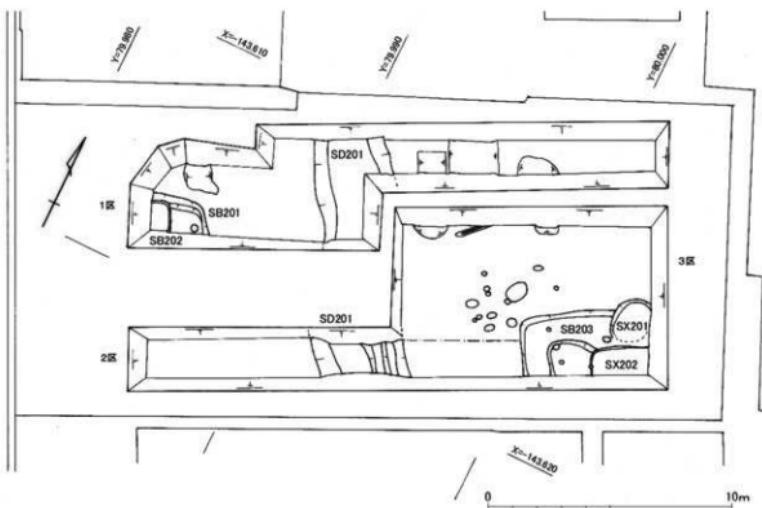


fig.62 第2遺構面平面図

**豎穴建物SB203** 2区東端部で確認した遺構は調査幅が1.6mと狭小であり、この遺構の状況が不明瞭であった。そのため、2区と3区を繋げて調査を行いこの遺構の状況把握に努めた結果、豎穴建物1棟とそれを切り込んだ遺構2基を確認した。豎穴建物はおよそ4×2.5mの大きさで検出され、全体の半分程度が調査できた。床面では5か所の柱穴・ピットが確認されたが、そのうちの2か所がこの住居の屋根を支える柱穴であったと判断される。この住居はおよそ一辺5m前後の大ささで四本柱の方形住居と推定される。古墳時代初め頃の土器が出土している。

**不明遺構SX201・202** 2区の遺構検出段階で僅かに色調の異なる土質の差異を平面的に確認していたが明瞭ではなく、豎穴建物SB203の覆土を掘削して床面を検出作業中によくやく別の遺構が切りこんでいることが判明した。検出の状況や形状が豎穴建物SB201・202と似ているが、明確に豎穴住居である証拠に乏しいため、SX202とする。

SX201はSB203の覆土を掘り込んでいるが、その覆土はほぼ同質であり、遺構検出作業段階では判然としなかった。拳大の礫と古墳時代前期の土器が破片の状態で多く出土した。

**溝SD201** 1・2区で確認された溝で幅約3~4m、深さは北側で70cm、南側で1.2mを測る。南側は二段に掘られており、下段の堆積層は砂礫を含む中砂・粗砂で、水流のある環境で堆積したと判断される。上段は黒灰色の粘質土が堆積し、開渠の状態で周辺から流れ込んだ土によって徐々に埋没していくと思われる。最終的にはほぼ埋まった段階で壅んだ部分を褐色粘質土で覆い、よく締めて整地している。2区の下段堆積層からは土器がまとまって出土した。時期は概ね古墳時代初め頃のものと判断される。

**ピット** 2・3区で検出された検出された豎穴建物SB203の北西側付近で、ピットを10か所程検出した。掘立柱建物や柵を構成せず、用途・目的は不明である。

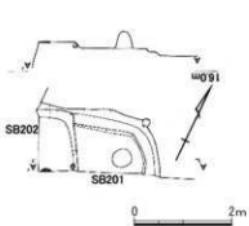


fig.63 SB201・202 平・断面図

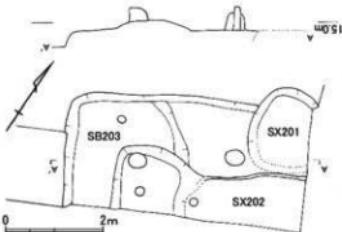


fig.64 SB203・SX201・202 平・断面図



fig.65 SB201・202 (北から)



fig.66 SB203・SX201・202 (北から)

### 3.まとめ

調査の結果、第1遺構面では鎌倉時代末～室町時代初め頃の柱穴、ピット、土坑、溝を、第2遺構面では古墳時代初め頃の竪穴建物、古墳時代前期の土坑、ピット等を検出した。

第1遺構面の1区の東西方向の溝と2・3区の南北方向の溝は、接点部分が後世の井戸等により失われているものの、矩形に曲がる溝、あるいは南北方向に流れる溝に東西方向の溝が取りつく状況が想定される。特に前者ならば、屋敷地を囲繞する区画溝の可能性がある。鎌倉時代から室町時代にかけて、在地の有力者が屋敷地の周囲に堀、溝を廻らせて土地を囲い込む例が多く、今回の発見例はそれに該当すると考えられる。なお、東接する第4次調査地ではこれに統くと思われる断続的な溝状の掘り込みが確認されている。

また、今回の調査地の南東側に位置する第20次調査（平成13年度調査）では、今回の調査とほぼ同時期の導水施設を持つ礎敷きの池跡（園地）や井戸、柱穴群を確認している。この当時の園地は在地有力者が築き得たものであり、このような周辺の調査例からみて、この溝が屋敷地を囲繞する区画溝の蓋然性は高まってくると言える。

さらに石硯の出土は、識字階級の人物が付近にいたことを示唆する。読み書きができることは当時としては極めて珍しく、僧侶、あるいは莊園領主と文書の往来が必要であった在地の有力者等限られた人達のみであった。石硯はそのような人々の居住を示す傍証と言えよう。

第2遺構面では、古墳時代初め頃の竪穴建物を合計3棟検出したが、いずれも調査区の隅に掛った状態であり、1棟全体を調査することはできなかった。これらは一辺5～6mの方形の竪穴住居と推測される。また調査区のほぼ中央を南北方向に溝が流れているのを確認した。正確な用途・目的は不明であるが、集落の排水、灌漑用水等の用途が推定される。